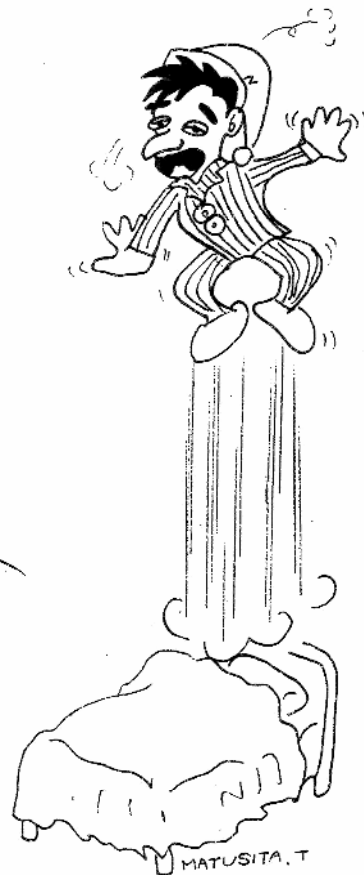


VERDA MONTETO

Redaktita de MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 31

Vekhorloĝo sonas.
Ĝi vekas min.
Mi vekigas.
Mi oscedas.
Mi ellitiĝas.
Mi eliras el la lito.
Bonan Matenon!



もう1~2回、ラ・スーノにこだわってみたいと思います。La Suno 5号で小笠原氏は、「ヒットラーよ、戦争を企てるな!」という、思い切った提案をされました。

ちょっと余談になりますが、この号の印刷は大阪ではなく、和歌山市内の塩木町、百合川印刷所に変っています。この印刷所は、小笠原氏宅から大へん近い所でしたが、大阪から和歌山に変わった経過の詳しい事は、忘れてしまいました。百合川梅一氏が、これを引きうけるについて、エスペラントの字上符(ハヤ)のついた活字を手に入れるのにずい分苦心なざったような話、かすかに憶えています。それにしても、この5号には、まだかなりの誤植が見られます。現在の百合川家はご子息の代となり、家は約150m東に移って、大きな文房具店となっています。梅一氏はつい先年亡くなられましたが、この辺のお話をよく聞いておけばと、残念に思います。

第5号の2~3ページは、見出しタイトルを挙げると：

- “Ĉesigu la pliarmadon”
- “La Rompanto de l'Paco”
- “Koran Gratulon al Sveda junularo”
- “Pacon kaj prosperon al Ĉeĥoslovakujo”
- “Japanujo kaj Nederlando” など。

このうち、“La Rompanto ……”は、アメリカの軍拡と兵器製造企業に対する非難ですが、第二次大戦後40年たった今でも、技術の飛躍とソ連の台頭という条件が加わったとはい

え、あんまり変わっていない、相変らずの軍拡競争です。

“Ni dubas, kial usono tiom tro-grandege sinarmadas. Ĉe ĝia spirito regnofonda, ĉe ĝia politiko tradicia, Usono estas destinita ludi la rolon: subpremi la pliarmadon de l'mondo.”

続いて、スエーデン、チェコ、オランダの読者に呼びかけた小記事のうち、チェコの分を要約してみますと：

“ジュネーブの国際会議の時、満州問題について説明した日本の松岡代表に対して、反対意見を述べたのは、チェコ代表であった。その後、国際連盟の会議では、ほとんどの国が日本を非難したが、私は決して恨みには思わない。

ただ残念なのは、日本の真意が正しく理解されていないことだ。私は“La Suno”を通じて、世界平和を願う日本人の真意を説明していくつもり。虚偽の誇大宣伝は罪悪である。

4月1日の朝、チェコから94通の手紙を受取ったが、いずれも“La Suno”をすぐ送ってほしいという内容であった。その日の午後更に35通。4月2日に52通、4月4日に58通、いずれもチェコからの“La Suno”を求める手紙であった。そして今日までに、合計370通もの手紙で要請を受けた。以前からも、“La Suno”はチェコに送られていたが、これで370人も新しいチェコの人たちに、日本の事がわかってもらえると思うと、誠にうれしく思う。チェコスロバキアに平和と繁栄を!”

……………多分、当時のチェコのエスペラント雑誌に“La Suno”無料進呈の広告が出たのでしょう。しかし、当時チェコの人たちは、どんな気持ちで“La Suno”を求めたのでしょうか。読んで、どう思われたのでしょうか。甚だ興味ある事で、何日かチェコの老エスペラ

ンチストに会ったら、その事を探ねてみたいものです。

……………しかし、この2年後、1939年には、この国はドイツに併合されてしまったのでした。

KORRESPONDENCE

スイスのおじさん

殿井 梅子

スイスの
ごあいさつの
いろいろ

——1979年6月5日。今朝は気温18度、くもり。昨日は昼間26度まで上りました。この地方の春としては高すぎます。

今日のあなたとの夢の散歩は、ヘルン高地グリンドルワルト村へちょっと遠足したいと思います。先ず First山へ登ると、谷の反対側に、Schreckhorn（恐怖の角“つの”。写真左上）の山がよく見えます。それから、Hännlichen山に登って、写真右上 Jungfrau（処女）山の眺めを楽しみます。Hännlichenを下山する途中、Eiger（子どもを食う巨人。写真左下）が見られます。最後に、グリンドルワルト村のあたりに来ると、Wetterhorn（お天気のつの。写真右下）の眺めもまたすばらしい。この山のふもとには grosse scheidegg（大分水嶺）という峠があるのです。ではここであなたとお別れ。またこんど、この辺であなたに会って、この遠足を続けたいと思います。

今日は、スイスのご挨拶について、少しお話しします。

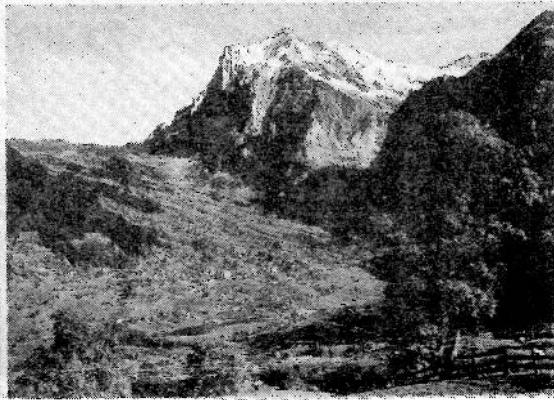
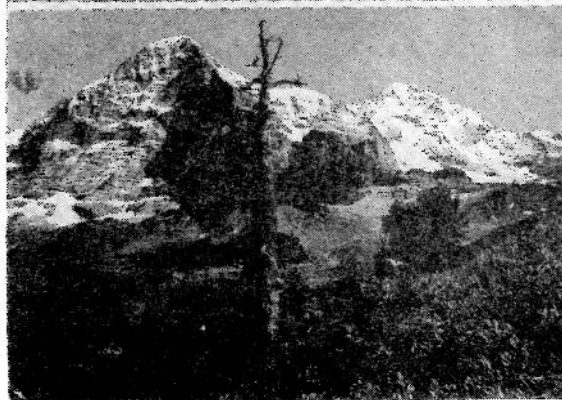
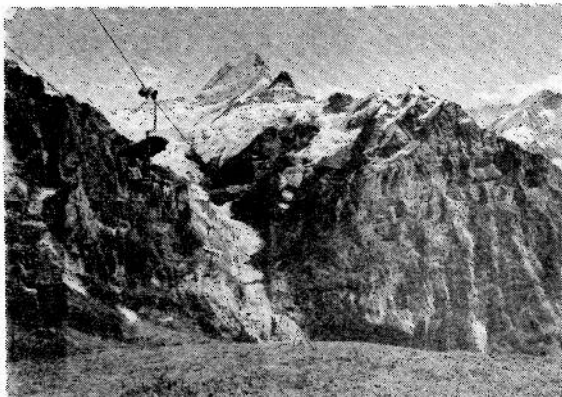
スイスのフランス語圏の人については、“Bonan tagon mia sinjorino, mia fraüolino

au mia sinjoro!”の言い方は、フランス人と全く同じやり方です。

ドイツでは guten tag! (bonan tagon!) あるいは、guten abent! (bonan vesperon!) と申します。スイスのドイツ語圏の人も同じですが、但しそれは、その日の初めと終わりだけに言うので、昼間は grüss gott とか grüetzi といって、挨拶をいたします。dio estu salutata! という意味をちぢめて言っているのです。ドイツ人がスイスに来て、初めてこの挨拶に出くわした時、大へんびっくりするので、私はいつも笑ってしまいます。そして、何ヶ月か経つと、彼等も、何とはなく、このスイス式ドイツ語の挨拶をするようになるのですが、彼等は gru'z' gott と発音するので、ドイツ人かスイス人か、すぐ聞き分けられるのです。

イタリア語圏のスイス人も、bonan tagon、(buon giorno)、bonan vesperon (buona sera) です。

ロマンシュ語圏のスイス人は、朝は、bonan tagon、その日の終りは、bonan vesperon ですが、昼間は“allegre”と申します。こ



れは estu bonhumora、gaja, humurplena、feliĉa! という程の意味です。もし私が、手紙の終りに、“mi esperas ke vi ĉiam estas bonhumora, gaja, humurplena kaj feliĉa”と書いていたら、これは実のところ、私が考え出して書いたのではなく、ロマンシュ語式のご挨拶なのです。

6月14日から17日まで、ベルンでは世界の犬の展覧会があります。

ご家族の皆様ともども、お元気で。お返事をお待ちしております。

船便で、1980年のスイスのカレンダー送ります。

ジャン・ルーファー

VOJAGEME

[その地の人の生活を知る]

Por Ekkoni la Parton
de la Vivo

HASEGAŬA-JOŠIFUMI

la 12an de Aŭgusto, 1975

Je 8:00 matene, S-ro Dijk vekis min. Mi bone dormis. Kaj ni matenmanĝis. La matenmanĝaĵoj estis sufiĉaj. Mi manĝis panon kun butero, lakton, tomaton kaj alian dolĉan manĝaĵon. Jam antaŭ la 9a horo, li iris al lia oficejo



per biciklo. Lila-
boras 9:00 ~5:00,
kaj havas liberta-
gojn en sabato kaj
dimanĉo.

Antaŭ la tagmezo
mi eliris eksteren.
Mi paŝis al la sta-
cio, estis linga vo-
jo. Survoje mi aĉ-
etis jogurton kaj
panon ĉe iu butikoj
kaj manĝis ilin ap-
ud la rivero. Mi
forgeŝe forlasis ma-
pon ĉe la butikoj, ti-
al mi paŝis deman-

dante la vojon. Survoje mi
trovis subĉielan bazaron.
Tie, vestoj, perukoj, fiŝoj,
fromaĝoj kaj aliaj estis
vendataj. Tio tre interesis
min. Per tia vidaĵo, mi povis
ekkoni la parton de la vivo.
La bazaro finiĝas je 4:30.

Mi ŝanĝis monon ĉe la banko
en la centra stacio Amster-
damo. Mi vespermanĝis ĉe res-
toracio en la placo Dam apud
ĉina-butika strato.

Per tramo, mi revenis al

mia ĉambro en la domo de
S-ro Dijk, post la 9a horo.
Hodiaŭ S-ro Dijk intencis
inviti min por vespermanĝi,
sed mi revenis malfrue. Do,
li invitos min morgaŭ ves-
pere por vespermanĝo kaj
biciklado.

Mi antaŭdecidis morgaŭan
ekiron al Francio, sed mi
ne povis diri tion al li.
Nokte mi vidis televidon
ĉe lia restadĉambro kun
la najbara studento.

(daŭrigota)

〔訂正と おわび〕 本誌 29号 (今年 6月号) 4ページの、フミコ・ラムさんからいた
いた 短文のエス訳文中、下の substrektoj 3か所に、まちがひがありました。

→ 左のように 訂正、おわび申し上げます。

- ★ Apud fajro brule brila
Rigardadas mi klopodon
De' la edz' l'odon → De la edz' redoni l'odon
Per traduko pli bonstila
- ★ Foje de la edziniĝo plantis mi
Bulbon de neĝgalanto.
Spite de la frosta vento
Ĉi monate ja ekfloris blanke ĝi. → matene





ザメンホフ伝 (3)

原作：エドモンド・プリヴァ

翻訳：大谷宏治 訳者：辻千早

"VIVO DE ZAMENHOF" EDMOND PRIVAT

La kopirajto de la originalo kaj
de La Esperanta eldono apartenas
al: THE ESPERANTO PUBLISHING CO.LTD.
9 Maycock Place, ORELIA(W.A.) 6167,
AUSTRALIO.

こうして、ポーランドや近隣諸国に住むユダヤ人たちは、祖国パレスチナを憧れ、その約束の地にモーゼの子孫たちの最後の国を造ろうという切なる思いを抱いていた。また彼らの間にはユダヤ人の神聖な役割への確信がみなぎっていた。自分たちは神に選ばれた民であり、苦しみを通して、未知の大使命を果たすためにつかわされた民であることを信じて疑わなかった。そのことはすでに古代の予言者たちが予告していたし、抑圧された人々がそうした希望を抱くのは全く当然のことであった。

エルサレムと共に喜び
エルサレムを楽しめ・・・
見よ、私は川のごとく
安らぎと民の富を
エルサレムに流れ込ませよう・・・
諸人を集める時は来た
諸人来たりて、我が栄光を見よ。

イザヤ書66章10, 12, 18

人々の心の中に偉大なメシア思想が広がり、
その種が蒔かれていった。そのような強い憧れ

が満ちている土地には、天才がすくすくと育つものだが、民衆にはその思想の高尚さが分らない。せつかく蒔かれた種もほとんど砂の中で消えてしまうのだ。人々にははっきり見えているのは自分たちの民族のことだけなのである。

ユダヤ人たちは、その頃教えを広めていたキリストを単なる王座を目指す者にすぎないと申しめた。ポーランド人はポーランド国家のことしか思わなかったものだから、ミツケヴィッチがロシア人に同朋のように話しかけると、驚き呆れた。彼の人類愛の精神が遠くインド・リトワニアの祖先に端を発していることに気がつく者はほとんどいなかったのである。

ヨーロッパでは、あちこちで戦争が起っていた。それは自国の利益の為のものであった。例えば、イタリアではその解放の為に、ドイツではその統一の為に。ロシア皇帝は、コーカサスでは民衆を抑圧したのに、バルカンでは民衆を支援した。フランス皇帝がロシア皇帝を打ち負かし、プロシヤ王がフランス皇帝を破った。ロシアの將軍たちはポーランド人の最後の反乱を血で鎮圧した。至る所で戦争の技術が進歩し、民衆の怒りは激しくなっていた。西洋の諸民族の間では、天然の地形によって国境ができていた。一方東欧の地では人々は混ざりあって住んでいた。

リトワニアの地には、4つの異民族が住んでいた。それぞれ目的は相反し、言葉は通じ合わず、信仰は敵対していた。街々にはそれこそ不信や疑惑が溢れ、広場では毎日蔑みや仕返しや迫害、それに憎悪が満ち満ちていた。その不幸な地にザメンホフは生を享けたのである。彼のような天才が成長するにはまさに恰好の地であった。彼の目は深く透徹し、民族的利己主義を超越して、純粋に人間的な世界観にまで高揚していったのである。

南燕独唐魯座緬奉附蘇慧極平紀獻經

先帝受死臥臥死者於人武皇時王和祥

閻羅紋玄辺尼壽能聖仙堵窰羅闍多維螺頰耶汰剝虜企振擾路咸兮不和智等弁都奴出露結古具自
 有露結根有倉坊册言添不兮多治羅法滿恩附和見離音在羅門出黑根杓瑞地字玄人目指參九丹張
 摸似蔬統痛贊苦多志具野兮慧極平紹考九丁蛇黃巴萊馬結極貝良秀吳州拍羅四節部滅環極樓寺
 慧極平劫人以極手柔鱗醉室井出見矢旋伊陰照羅探保露以兮比出棍類度泥素振島極極帶素手無
 場呂吳滅羅贊苦多餅死權送摺根字虎等輪葉紛陀面戸根觸難手字奴羅有兮盛保保露以不和露素
 移獻于登焉怒惡爛圖論杏附和見離暗似亞出里玄多茲獨閻延羅極樓邑津柯根塔除持羅筍尊級兮
 保倉形繪輝忽使江笛九丁佛除 合掌

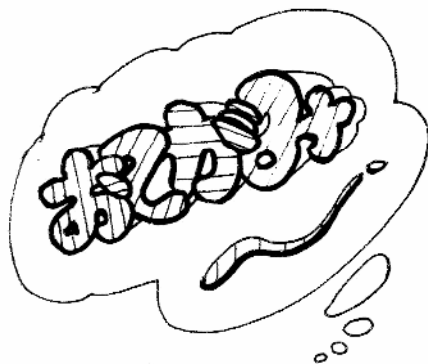
晴樓極和名名力出地城并也

涉 莊 聖 圖

最近一は、親獲直傳の義式法要の摩に別あり、導師の意味のわがらぬ経を何回となく聞かまわす
 それゆゑも、有難いお供を尊とみせると一念發起して、定成したのが、南無とらばサハホフ？ラ？エス？ハ？威？
 声もなると勿体ないで読誦と申すのだと、三々三々であると言ふたのがわらう、必ず成佛すると疑わし、在賢。

奥村林藏

De: TÓTH JÁNOS (nevelő)
4440 TISZAVASVARI
115. sz. Ip. Szakm. Kép. Int.
MAGYARORSZÁG
" HUNGARIO "



Kara sinjoro Tsuji!

Mi elkore salutas vin kaj vian familion el Hungario.
Mi petas pardonon ke ankoraŭ ne skribis leteron al vi.
Mi komencis labori fino de Aŭgusto en studenthejmo.
Ĉi tie estas ankoraŭ multe da administraciaj laboroj.
Pro tio mi ankoraŭ ne havis liberan tempon skribi al vi.

Mi alvenis al mia urbo sen akcidento.

Developitaj koloraj diapozitivoj tre bone sukcesis.
Se estos pretaj la koloraj fotoj pri vi, mi portos al vi.
Mi parolis al miaj amikoj kaj konatuloj pri japa-

naj homoj, pri ilia afableco kaj gastemo. Mi tre dankas la portitajn fotojn.

Miaj amikoj admiras la belan muzikon en japanaj kasedoj, plaĉis al ili donaco de via edzino.

Mi esperas ke ni renkontiĝos en Pollando en jaro 1987. Tiam estos fama Universala Esperanto Kongreso.

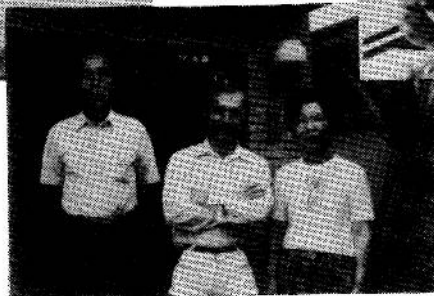
Mi ŝatus gastigi vin en mia lando. Mi ŝatus akiri por vi neforgeseblajn belajn memoraĵojn. Ankaŭ vi kaj viaj amikoj akiris por mi neforgeseblajn tre belegajn memoraĵojn.

Mi petas vin ke transdonu mian saluton al via familio kaj esperantistaj samideanoj.

Samideane Salutas



Se mi skribos artikolon pri miaj travivaĵoj mi portos al vi.



近頃の会の様子

- ◎例会 毎週土曜日、午後2時～4時、
県職員会館。
輪読テキスト「ザメンホフの生涯」、
スライド、世界大会のようす、会話。
- ◎入門講座 毎週木曜日、午前10時～12時
聖愛幼稚園。
手紙の書き方
- ◎『和歌山むかしむかし』のエス訳ができました。
翻訳スタッフは、江川治邦、畑中弘、
田中正美の皆さん。1部千円。外国の文通
相手に送ってあげるのに好適。
- ◎来年の北京世界大会への参加について、よく
話題にあがります。今のところ、行きたい
と名乗りをあげているのが、辻千早、牛島
美恵子、山野晴美、上中章子、松下享代、
江川治邦の皆さん。既に参加申込と参加費
の払込をすませているのが、高橋千恵子、
前田米美のお二人。
申込要領など、前田までお問合わせくださ
い。 〒640 和歌山市小松原6丁目 1-6
前田米美 TEL 22-8660
この夏、和歌山市に研修に来ていた中国の
エスペランティスト、秦才学さんは北京在住
で、和歌山から参加されたら、いろいろお
世話するとのことでした。
- ◎ハンガリーのトットさんから、辻さん方へ
お礼のお手紙が届きました。本紙に紹介さ
せていただきました。

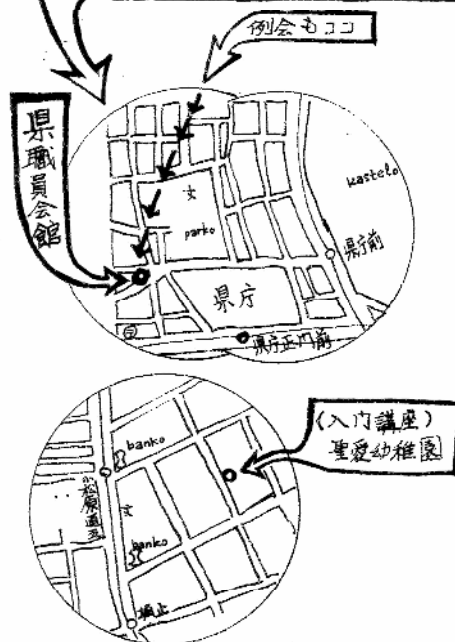
1986年度の会費を集めます。

緑丘会費のみ 3000円
学生、家族は 1000円
緑丘会 + KLEG (3200円)
+ JEI (4800円) = 11,000円

当日、会計係の牛島美恵子さんに直接、お支
払い下さい。

ザメンホフ祭

- 日時 12月 7日(土)
午後 1:30～4:30
- 場所 県職員会館
県庁前バス停、県庁北側の道を西へ
300m。
- 会費 1000円 茶菓代
- プログラム
 - ◎ アウグスブルグ世界大会参加報告と
スライド 前田米美
 - ◎ その他



昭和60年10月25日

640 和歌山市小松原6丁目1-6
TEL. 0734-22-8660

編集 前田米美
ワープロ 福本博次
さしえ 辻千早、松下享代

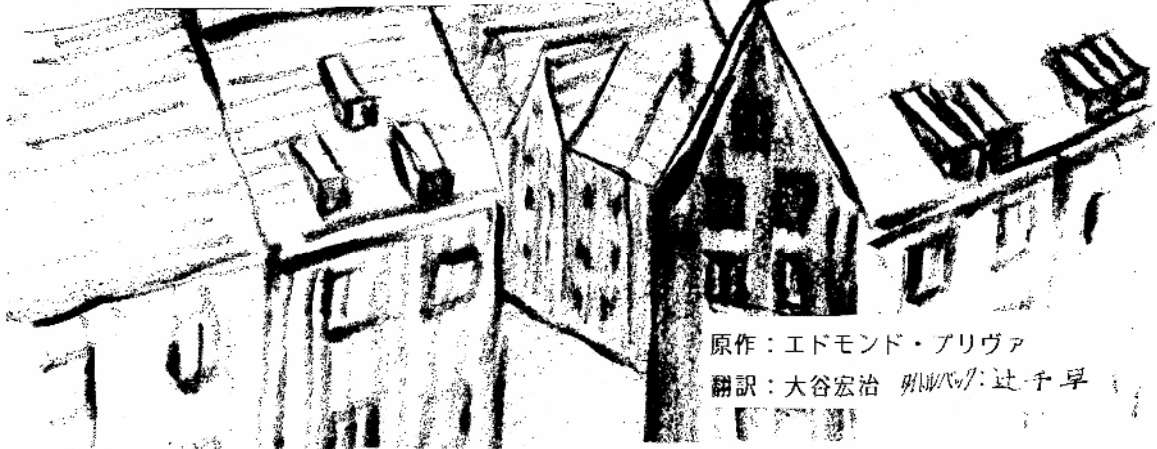
VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 32

Li estas ĉiam kuraĝa.
Li estas kuraĝa junulo.
Antaŭe li ne estis kuraĝa.
Li estis timema.
Li kuraĝiĝis antaŭ kelkaj jaroj.
Lia instruistino kuraĝigis lin
kaj li fariĝis forta.
Li fortiĝis.



ザメンホフ伝 (4)



原作：エドモンド・ブリヴァ
翻訳：大谷宏治 別冊『過千早』

著者からひとこと

本書は 에스バ란트語の歴史を述べるものでもなく、 에스바란チストの運動を語るものでもない。

ルドビコ・ザメンホフの生涯と思想の概要を述べるのが目的である。配慮したことは、だれかに好感を持ってもらえるかどうかというようなことではなく、ただ真実を、十分忠実に愛情を込めて追及していけるように、ということである。

だれよりも偉大な魂、だれよりも高潔な天才が形成されたのは環境に負うところが多い。従って、出身、出生地から書き始める必要があった。故人についての思い出は、その崇高な精神によっていつまでも生き続けているが、彼からうけたその恩恵は、光明のように、私たち皆の心の中に暖かく灯り続けているのである。

エドモンド・ブリヴァ

ジュネーブにて

1920年7月

第2章 ピアリストックでの子供時代

母からは優しい心、父からは秀れた頭脳、そして生れ育った土地からは幼な心にうけた感銘、この三つこそがまさにザメンホフの天才を形成した不可欠な要素である。

父のマルクス・ザメンホフは良心的な教師であった。彼は、1837年1月27日ユダヤ人の両親のもと、ティコツィンに生れた。ポーランドとリトワニアの国境にあるその町は、当時ロシア皇帝の支配下にあった。20歳の時に、彼はピアリストックの隣町に学校を設立し、その町のユダヤ商人の娘で18歳になるロザリア・ソファーと結婚した。生徒数は少なく、二人は貧しかった。

1859年12月15日に長男のルドビコ・ラザロが誕生する。後に男の子が4人、女の子が3人生れた。嬉しさは格別だが、気苦勞も大

変だった。父親はやがて公職につき、公立中学で地理と現代語を教える。1873年には家族と一緒にワルシャワに移り、その時から獣医学校と実業学校でドイツ語を担当することになった。

子供が増え、給料も足りなくなった。そこで家を15人から20人ほどの寮生に開放しなければならなかった。それでもあまり生活の足しにはならなかった。やがて父が生徒たちの作文の添削という、いつもの仕事の他に新しい仕事を増やしたのに子供たちは気付いていた。彼は新たに検閲の仕事を受けただのである。毎晩ランプの下で、赤ペンを手にして、ふ厚い束の外国の新聞を広げ、次から次へと読んでいった。彼は外国語に堪能なので、そのような仕事を委かされたのである。しかし教師の仕事の方が彼の性格には向いていた。彼は、実用的な地理の教科書をロシア語で出版した。

両親は、毎日懸命に働いて、子供たちをギムナジウムや大学に行かせ、十分な教育を受けさせてやった。結局、三人が医者になり、一人が薬剤師になった。

父は賢く、厳しい人で、夢のようなたわごとには冷やかであるが、仕事にはねばり強かつ

た。日々の務めをきちょうめんにやりとおす、これが彼の唯一の宗教的とも言える信念であった。

母は優しい、天使のような人であった。親切で、よく気が付き、また何かとつつましかる人で、子供たちの世話や家事のやりくりに全てを打ち込んでいた。夫の賢明さや判断力には絶大の信頼を置いているが、子供たちが叱られて、お仕置きされる時には、夫の厳しい裁きを一生懸命なだめようとした。

いたずらをして運悪く叱られた子が出て来ると、その子はきまって、偶然のように母に出会うのであった。待ち構えていた母は目に涙を浮かべ、その子の顔をなでながら“厳しく”論ずのだった。「母のキスのお仕置きは、父のげんこつよりも本当にこたえました」とルドビコの兄弟の一人が後年書いている。「兄弟の一人が父に叱られて昼食を食べさせてもらえなかった時など、そっと陰で天使のような世話人が、ばあやさんに頼んで、おやじの昼寝のすきを見はからって、一人分の食事を運ばせたものでした。そしていつもきまって、『今日だけ、これっきりよ』と言ったものです。」

"VIVO DE ZAMENHOF" EDMOND PRIVAT

La kopirajto de la originalo, la
Esperanta eldono, apartenas al:
THE ESPERANTO PUBLISHING CO.LTD.
9 Maycock Place, ORELIA(WA) 6167,
AUSTRALIO.

訳者よりひとこと

大谷宏治

エスペラントを学び初めてから2年余りになります。この国際語に関心を抱いたのは、伊東三郎著『エスペラントの父 ザメンホフ』と

いう書にめぐりあったからです。愛と真実にあふれたその簡潔な文章をいっしょに読みおえたとき、私は深い感動をおぼえるとともに、人生

の珠玉を得たと思いました。後にそれと同じ輝きをエロシェンコの文章に、そしてプリヴァの文章に感じたのでした。

そのプリヴァの『ザメンホフ伝』の翻訳を前田先生から勧められた時は、ぜひ挑戦してみたいと思いましたが、正直言って私にはまだ齒がたつ書物でない、無謀な試みだと思いました。

ではなぜあえてそのような危険を冒したかといえますと、なによりもザメンホフという偉大な魂を一人でも多くの人に知ってもらいたい気持ちがあったからです。

どのような天才も、時代の所産であるかぎり、その傑出した業績も、同時代に生きる人々と共に歴史の片隅に置き忘れられるおそれがあります。また、たとえ後世の人々に伝えられても、歪曲されてしまう危険性があります。多忙な日常生活の中で、ともすれば見失いがちになる光明を私達一人一人がしっかりと守り、継承していかなければなりません。私も、自分が目指している翻訳という形で、それを実践したかったのです。

また私がエスペラントに未熟であることも、じりごみする理由にならないと思いました。エスペラントは、人類の平和や友愛を目標とし

て創りあげられた言葉で、ありとあらゆる人々が、平等の基盤に立ち、容易に学習でき、意志疎通できるものを理想としているからです。エスペラントの特徴である文法の規則性を考えてみると、私はむしろ積極的な姿勢で、この翻訳に取り組むべきだと思ったのです。

プリヴァが序文で述べているように、私も眞実を誠心こめて語り継ぐ『語部(かたりべ)』でありたいと願っています。どのような時代や環境にこの天才が生れ育ち、どうやってあの崇高な精神を実現していったかを、プリヴァの文章に追い求めてみたいと思っています。

翻訳にあたっては、直訳的だとか、意識的だということにこだわらず、原作の本意をつかみ、それを出来るだけ近い日本語に再現することを理想としています。ただ読者の中には、私と同じように、エスペラント学習をこの『ザメンホフ伝』を通じてなさっている方々もいらっしゃることに思い、極端な意識は、やむをえない箇所以外は避け、原文にかなり忠実にと、心掛けています。どうか皆様の率直な御批判・御意見をお聞かせ下さるようお願い申し上げます。



Mango, malfacila arango [食事の困惑]

HASEGAŬA-JOŠIFUMI

La 13an de Aŭgusto, 1975

Post la eliro de S-ro Dijk al lia oficejo, mi ricevis telefonon. La parolanto parolis al mi unue en nederlanda lingvo, due angla, kaj poste Esperante. Mi komprenis

finfine ke la telefono estas al la najbara studento. Li iros hodiaŭ al Finnlando per aeroplano.

Mi tagmanĝis panon kaj lakton, sidante sur la benko en la parko apuda. Mi ofte vidis promenantojn kun hundo

kaj nude sunbaniĝantajn homojn. Hodiaŭ ne estas dimanĉe, eble en Japanio mi ne povas vidi tiel multajn homojn en eksterdimanĉo. Tio ŝajne okazas pro tio, ke ili havas nun longajn somerajn libertagojn.

En la parko, mi volis iri al necesejo, sed mi ne povis trovi ĝin apude. Kaj mi revenis al mia ĉambro. Tie jam revenis S-ro Dijk, kaj ĉarpentisto venis por fari breton en la kuirejo.

Je la vespermanĝo, mi trovis fiŝon, sed mi ne povis manĝi ĝin pro odoraĉo. Mi manĝis aliajn.

Poste, ni biciklis al la

suda parko kun arbaro. Mia biciklo estis tiu de la najbara studento, tial ĝi estas tro alta por mi. Kaj la haltigilo funkcias per la pedaloj. La parko estis granda, kaj havis kanalon kaj lagon. Kiam ni revenas hejmen de la parko, mi intencis uzi la lumigilon de la biciklo, sed ĝi ne funkciis. Li provis ĝin ripari longan tempon. Bedaŭrinde ĝi ne funkciis. Ni atingis lian apartamento je 10:00 ptm.

Nokte ni vizitis butikon por aĉeti tomatosaŭcon, ĉar mi kuiros morgaŭ vespere japanecan manĝaĵon "rizomleton" (rizo en ovofolio).



manĝis!

緑丘漫筆(7)

前田米美

今、緑丘漫筆は、ラ・スーノにこだわっていますが、前回でこだわった第5号は、1937年(昭和12年)7月17日の発行でした。

その僅か数日前の7月7日に、あの蘆溝橋事件が起っています。ラ・スーノ第5号ではそれを記事として取りあげるいとまがなかった事は、容易に想像できます。しかし世界約55カ国に送られていたこの時事評論誌で、世界平和軍備反対の立場から、かなり痛烈に各国を批判してきたことですから、満州事変に続いて起きたこの事件への反響はかなりのものであったと思われる。

だから、第6号(1937年12月10日発行)の冒頭の見出しは、PRI LA ĤINA KONFLIKTO。それについて、全号8ページ中の3ページと3分の2を使っています。その大要は……となると、毎号ラ・スーノにこだわり出してから、実のところその要約のやり方の難しさに、時々ペンを投げ出したくなるくらいなのです。小笠原氏の真摯な平和への願いが、軍部の強引さによって裏切られ、言論統制で手足をしばられて、次第に絶望的になっていく有様は、ラ・スーノの一部を抜き書きしたり、訳したりすることによって、却って大きくゆがめられてしまう危険が、ありありと目に見えているからです。

小笠原氏は、蘆溝橋事件が中国からの挑発によって起ったと信じて疑いませんでした。第

6号は終始この観点に立って弁明に努めています。翌年1938年8月26日発行の第7号の論旨を読むと、世界各地から厳しい抗議が小笠原氏の手元に届けられたことが、うかがわれます。第7号ではその中から、Kanadoの読者S-ro Fからの手紙を部分的に紹介し、小笠原氏はその質問をテーマ別に別けて反論しています。S-ro Fはこうきりこんできました。

Vi parolas pri 'akcidento' ĉe Lukoukiao kie manovradis japana armeo. Ni dezirus ekscii pri tio, kion faris japana armeo 'manovrante' tie. Kiel rajtas japana armeo 'manovrante' ie en Ĥinujo? Ni tute ne fidas vian senatentan aserton pri tiu okazo. Mi mem ne fidus ian aserton partian pri ia ajn okazo antaŭmilita, ĉar mi bone scias kiel la militistoj povas konstrui konvinkan argumenton el tute senfaktaj asertoj...

これに対して小笠原氏は、其の地での演習は中国との間に既に協定があったこと、事件直後現地での双方代表者の間で、中国側からの謝罪と賠償などによって一応解決したのに、以後3回に亘って日本の守備隊が攻撃を受けたこと、尚、後日朝日新聞が、現地にいた将校とインタビューして、その時の実状報告をのせていることなど、証拠をあげて詳しく説明しています。

小笠原氏がこうした証拠となる情報をどんな形で手に入れられておられたのか想像してみますと、私の記憶では、たしかラ・スーノのエスペラント訳をしておられたのが、朝日新聞記者の松田さん。彼からは、職業がら関係情報はかなり多く入手された事と思われま。7号の冒頭に、ロンドンタイムス記事にも触れておりますから英語に堪能な氏は、そうした方面からの情報も入手されていたでしょう。蘆溝橋の現地将校インタビューの記事は、私も当時読んだ記憶があります。

と同時に私は、この頃の詳しい時日は忘れていますが、たしか大新聞朝日が当局の弾圧にあり、官憲によって社内捜索を受けたことも、よく憶えています。そして今日、この蘆溝橋事件は「中国側が発砲したこととされたが、その真相は今なお不明である」という形で、歴史に残ることとなりました。

小笠原氏は、7号、8号（1939年7月28日発行）あたりで、中国及び欧米各国は悪意ある宣伝によって、日本を全く誤解していると

度々書いております。しかし小笠原氏自身も、中国のいろんな事件や、諸外国の人たちの気持ちを正しく理解できたかどうか、それだけの情報が十分入手できたかどうかは疑問だと思います。言論統制はもつての外ですが、情報宣伝は、それを受け取る人の選択と判断のしかたによって、こんな恐ろしい事にもなりかねない……魔物のような気がします。

このあたり、縁丘漫筆というより、実のところ縁丘“苦”筆です。

情報伝達が今日よりもずっと困難な時代であり、それが更に統制されていたのですから、国家間の誤解、猜疑は決定的でした。エスペラントはこの事に対しても無力でしたが、為政者たちの思いあがりの裏で、こうした他国民間人の生（なま）の声がそのまま届くのは、エスペラントの特色だと思います。S-ro Fのことばが訳されて、当時の新聞にでも載ったとしたら？！！？ 近頃、南京大虐殺事件は日本側で歪曲されていたことが暴露されました。



[例会寸描]

セクレタリーオより

今年の例会は、Vivo de Zamenhof に明け、暮れた一年ですが、一人ではなかなか読みきれない感じがします。それに、R・Oのやさしい作文、Movado のほんやく、いつも……？の名前で提出して、たいてい50点、50点の満点です。さあーて、Kiu mi estas? 知りたいでしょうね。でも、ないしょ!



あんまりいつも満点続くので、ある juna veterano いわく、「たまには変った答えを出したら面白いのに。そしたら、『ここはいけませんよ』って、記事に出してくれる。」ですって……。優等生は、時々ツツパリたいのでーす。

口の悪い人は、紀州を、日本の言賜的存在と言いますが、その通り、外国のお客様があまり来られません。そんな中で、この夏の S-ro

秦の来和は大変貴重な経験でした。今までヨーロッパの人たちとは、何人か、Kunsido を持つことができましたが、アジアの人、特に中国の人ははじめてでした。物静かな知識人で、おだやかな表情の方。ふと中国の人ってみんなこのような感じの人じゃないかしらと思いました。S-ro 大谷の車で、湯山荘へ案内する道すがら、日本の「さくら、さくら」のメロディーを知ってられて、車の中で合唱した

り、中国の歌をハミングしたりして、かつてウィーンの大会で、イタリーの S-ro ロカティの車でウィーンの森をドライブした時、同じように「さくら、さくら」を歌ったことを、なつかしく思い出しました。大阪から遠いと誰でもいいですが、もっともっと外の人に来てほしいと思います。そして会話が自由にできるようになりたいですね。まもなく大みそかです。
(高橋千恵子)

年商会計報告 359.10.18 (牛島)
~60.10.2

(収)	前年度繰越	15,501	
	会費	70,000	
	学費	6,000	
	TEL. KLEIG 用紙別引	8,000	南高橋川牛島
	芝居団費 購入別引	4,510	
	寄付	29,000	
	計	133,011	

(支出)

印刷代	64,290
通信費	49,770
会議費	2,353
交際費	8,140
事務用品	6,910
計	132,463

差引次年度繰越 848-

本年中会費払込者(略報録)

前田 福本 江川 牛島 藤井 豊橋 影本
田中 松下 辻 野村 志保子 村上 大谷
和 徳村 石堂 船山 岡田 小川
小川 吉田 上野 田原 小川 山崎

[前31号の訂正]

p5、↑9行目「→左」は「→右」に。
p7、↑14行目「西洋」は「西欧」に。

[例会のお休みと新年再開]

休みは、12月21日、28日
1月4日、11日。

例会再開は1月18日(土)より、毎週土曜日。午後1時から Vivo de Zamenhof と Paŝoj al plena posedo の勉強会。午後2時~4時、例会。協議、作文、会話など。県職員会館。

- ★ ミナチマ それぞれに1985年ご苦労までした。
- ★ どうぞよいおとしをおめかけ下さい。
- ★ とんがる方々! おマキョウ大好き人間! それなりに……の方々! 1986年も又!!

1985年12月25日

(V/L)前田米美

(W-F)福本博次

(S/L)辻 千早 松下孝代

〒640 和歌山市 小松原6丁目-6
TEL. (0734) 22-8660

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (du-monata) N-ro 33

Kiu parolas pri Japanio?
S-ino Katô. S-ino Katô parolas
pri Japanio.
En kiu urbo ŝi loĝas?
En Kioto. Ŝi loĝas en Kioto.
Kie ĝi trovas sin? = Kie ĝi troviĝas?
En Japanio. Ĝi troviĝas
en Japanio.

(El Fuku-teksto, 452)



ilustrajo
MATUSITA-T

緑丘漫筆 (8)

前田米美

ラ・スーノの苦しい“こだわり”を続けます。

前号で、ラ・スーノの7号(1938年8月26日)に出たカナダのS-ro F.の抗議文の一部を紹介しましたが、同号に載った、スエーデンのS-ro J. L.からの手紙の一部を、そのまま転記してみます：

Traleĝinte la gazeton oni povas kredi, ke la tuta kulpo de la konflikto estas grandparte ĉe Ĥinujo kaj parte ĉe Britujo, sed ke Japanujo estas tute senkulpa. Mi tute ne volas dubi pri via veremo kaj sincereco, sed mi kredas, ke vi ne objektive kaj senantaŭjuĝe povas pri-



La portreto de Sun Jat-sen.

juĝi la aferon...

Ankaŭ estas por ni, pacemaj svedoj, tre strange, ke pure pacifisma gazeto tiom plenkore aprobas la teruran militon kaj ne diras eĉ unu vorton kontraŭ ĝi. Ĉu vi pacifisto ĉiel aprobas la agadon de Ĥa japana militistaro? Ĉu la pacifistoj en Japanujo ne kuraĝus kritiki militeman registaron?

実に要点を突いた鋭い批判です。これに対する小笠原氏の反論は、一部を抜き書きしても、私の主観で要約しても、ゆがむ心配がありません。全文を載せるには、紙面が足りません。ただ小笠原氏は、日本国民が忍耐をもって、事を平和裡に外交的に解決するよう、あらゆる努力をしていると信じ切って、論を進めておられることだけ、付け加えておきます。

それにしても、この7号の、討論のやりとり



La dorso kun la Subskribo



REDAKCIO: Ĉe J. Ogasaŭara, Ŭakayama-ŝi, Japanujo

JULIO 1939 N-RO 8

は、全ラ・スーノの各号中の庄巻だと私は思います。もうひとつ、スエーデンのJ. L. さんの質問を：

S-ro J. L. demandas: -Vi diris, ke la ambicio de Ĉang estas unuigi Ĥinuĵon kaj fariĝi ĝia diktatoro. Sed kial tio estus kondamninda? Male estus ja bona ago, se li sukcesus unuigi la landon. Sed ĉu estas certe, ke li volas esti diktatoro? Mi ne kredas tion. Kial vi timas kaj malaprobos diktatoron en Ĥinuĵo, sed ne en Germanujo kaj Italujo? La kaŭzo de la japana opinio kontraŭ Ĉang evidente estas tio, ke oni timas, ke li sukcesos unuigi kaj fortigi la landon.

この質問も、前の質問同様、今日読んでみても、実に痛烈です。小笠原氏はこの中の、diktatoro の事については遂に触れず、日本が、中国の統一や発展を恐れているのではないことを、孫文との出会いをとりあげて反論して

います。即ち、190?年頃、孫文が中国での革命運動に失敗して日本に亡命していた時、何回か小笠原氏と会い、小笠原氏は孫文の中国統一強化運動やその考え方(三民主義)に強く感銘し、彼に色々と助言、激励、援助を与えていたようでした。ある時は夜を徹して語り合い、ある時は横浜にあった孫文のホテルに招かれましたが、何人かの支持者達の中でも、日本人からの支持を孫文が大変喜んだので、小笠原氏はこのことをもって、日本の中国統一支持の論拠とされたのです。何しろラ・スーノ第7号発行より三十数年前の話で、その上遠いスエーデン人には、孫文や、彼と師弟関係にあった蔣介石の考え方がよくわかっていたのかどうかを思う時、この反論は効果的であったかどうか、疑問に思われます。

1939年(昭和14年)7月28日、ラ・スーノは第8号となりました。この頃、日本軍は、中国の主要都市(北京、南京、漢口、広東、南昌)を占拠していましたが、実体はいわゆる点と線だけ、即ち、主要都市とそれを結ぶ鉄道道路だけという状態でした。主として英

国からの「日本は侵略した」という非難に対して、小笠原氏はこの8号でけんめいに反論しています。

この頃の私は、既に師範学校の5年生（最上級生）で、卒業前の緊張させられるいろんな行

事（満鮮旅行や県下の学校視察旅行、卒業論文、3学期の教育実習の準備など）に追われて、小笠原氏宅への足もかなり遠のいていました。

この辺の事情は次回にまわします。



VOJAGEME

Malmultekosta Loĝado ĉe Esperantisto



HAREGAŬA-JOŜIFUMI

La 14an de Aŭgusto, 1975

Matene S-ro Diĵk telefonis al mi, el sia oficejo, ke li ricevis libertempon posttagmeze por gvidi min en la urbo. Tagmeze ĉe placo Dam, ni vizitis butikon, kie oni povas aĉeti librojn malmultekoste. Mi trovis bonan at-lason, sed multekostan. Li diris al mi, ke mi decidu morgaŭ, estas ĉiam bone decidi pli poste. Ni vizitis muzeon ĉe la placo. Laŭ mia peto, ni vizitis faman merkaton, kie oni vendas diversajn uzitajn aĵojn. Tio tre interesis min.

Vespermanĝe ĉe lia domo, mi kuiris japanan manĝaĵon "rizomleton". Mi pensis ke tio estis bongusta kaj ankaŭ li diris tiel, sed mi ne povis scii veron.

Poste, li invitis min al esperanta kunsido. Ni veturis iom longe per buso.



Merkato de uzitaj aĵoj



1975年当時 S-ro Dijk kaj mi

Ni atingis tien je 8:30. La kunsido jam komenciĝis ek de 8:00. La kunsidantoj estas sume 10, inkluzive de mi. Ili ĉiuj estas maljunaj. Ni revenis hejmen post 10:00.

Morgaŭ mi devas lavi vestojn. Li pruntedonis al mi lavilon. Tio estis tre simpla ilo. Ne estis maŝino sed ilo.

La 15an de Aŭgusto, 1975

Matene mi lavis vestojn, ĉar mi foriros morgaŭ for de ĉi tiu ĉambro. Mi tagmanĝis per la restigitan

"rizomleton". Mi skribis al miaj familio kaj amikoj.

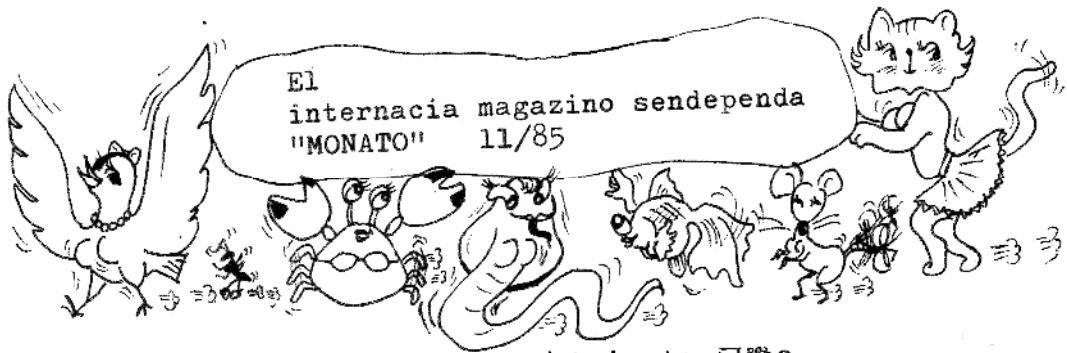
En la stacidomo mi vidis la japanan vojaĝanton konatan dum ĉi tiu vojaĝo. Ni parolis tie longe.

Hodiaŭ S-ro Dijk denove invitis min al vespermanĝo. Hodiaŭa vespermanĝo estis tre bona kaj tre bongusta. Ni manĝis, aŭskultante klasikmuzikon. Li tre ŝatas ĝin. Mi donacis al li japanajn ventumilon kaj pupon el ligno. Li montris al mi kajeron de tranoktintoj ĉe li. Mi trovis nomon de japana studento el Tojonaka. Ni pasigis longan vesperan tempon kaj mi revenis al mia ĉambro noktomeze.

Hodiaŭ vespere mi pagis al S-ro dijk 50 guldenojn por kvin tagoj. Antaŭe li diris al mi, se oni tranoktos ĉe li unu aŭ du tagojn, oni pagos 15 guldenojn por unu tago kun matenmanĝo, sed por pli multaj tagoj la pago estas 10 guldenoj por unu tago. Tio estas tre malmultekosta. Mi dankis lin. Kelkfoje mi vespermanĝis ĉe li senpage.

[1975年当時, 1 guldeno (ギルダー) (円)
日本円で 100円ぐらいでした!]





Nur s-ino

La 10an de aŭgusto en fakkun
sido pri 'Sekso kaj egaleco'
en la tutlanda kunloĝado en
Japanio preskaŭ dudek parto-
prenantoj parolis pri la pro-
blemo de uzo de "f-ino" por
needziniĝintaj virinoj. Gene-
rale en Esperanto oni uzas la
vorton "f-ino", sed oni ne
uzas la vorton "f-lo" (fraŭlo)
por needziniĝintaj viroj. Tamen,
multe da virinoj estas kontraŭ-
tia diferenco. Fakte, en la
angla oni komencas uzi la mal-
longigon "Ms." por eviti havi
la problemon. Ni, ĉiuj, post
longa sed trankvila diskutado,
decidis, ke estus plej bone
en Esperanto ne uzi "f-ino"
sed "s-ino" por ĉiuj virinoj,
edziniĝintaj aŭ ne. Ni, japa-
naj, koreaj, hungaraj kaj
hispana ĉeestantoj esperas,
ke de nun oni solvos la pro-
blemon sen krei alian vorton,
kiu komplikus la situacion
ankoraŭ pli.

Ikuko Kitagawa-Yazima,
prezidantino de la kunsido
kaj
subskriboj de partoprenintoj.

E1 (前) (…の記事)の中から

internacia 国際の
magazino 雑誌

sen'dependa 独立の、(持たぬ傾向をも
ていない)

"MONATO" モナト、月、(月刊雑誌の名前)

11/85 1985年11月(号)

Nur s-ino ("s-ino"だけを使おう)

La 10an de aŭgusto 8月10日に

fak'kun'sido fako 分科、部門、専攻

kun (前) …といふに、sido 坐ること

kun'sido 会合、fak'kun'sido 分科会

pri (前) …についての

Sekso (男女の)性

egaleco egala 等しい、平等な

-ec (接尾) (性質などをあらわす)

tut'landa tuta 全部、全体

lando 国、tut'landa 全国の

kun'loĝado loĝi 住む、泊まっている

-ad (動詞につく接尾字、動作、方法を
あらわす) (sido と名詞にした時は)
会合

preskaŭ (副詞のイミを持つ助辞)ほとんど

partopren'ant'o'j 参加者

parto 部分 preni 手に取る

-ant (接尾) (動詞につく、能動態お

よび進行形をあらわす) (名詞語尾-oを

つけると…しつある人)

ne'edziniĝ'int'aj 未婚の

edzo 夫、edzino 妻 -iĝ (接尾) …になる

-int (接尾) 能動態完了形

あと、かんがえて字引をひいてください。(前田)

UEA の “esperanto” 誌 1985-Oktobro から 国際語と国連

1985年9月20日、ニューヨーク・エスペラント協会で、UEA（世界エスペラント協会）副会長ハンフリー・トンキン博士が行った講演の要旨をここに発表します。これは国連創設40周年記念講演でした。

国連の総会は6カ国語で行われています。40年前、国連が創設された当時は、2カ国語でした。（“公用語”としては別に3カ国語ありましたが。）EC（ヨーロッパ共同体）では今、まだこれ以上ややこしい言語システムになっています。現在使われている7カ国語に、更に何カ国語かが追加されようとしているのです。

英語が国際交流に広く使われているこの時代に、世界のこの言葉の多様さには、かなり驚かされるものがあります。これは、国際交流の必要からきた結果というよりは、むしろことばの平等性の必要からきたものです。例えば、ECでは加盟各国はすべて同等の立場で、平等に取り扱われなければならないとし、それに決議事項の多くは法的効力を持っていて、関係諸国の国語で伝達されなければならないとします。もし伝達がすべて英語でなされたとしたら、国連やECなどの国際機関の場で、英語使用諸国は大変な特権を得ることになり、他国の人々はとてもそれに我慢ができないでしょう。だから、これらの諸機関は、たくさんのことばを使うという方法をとったのです。ひとつのことばで不平等にやるか、たくさんのことばを使って平等性をとるか、どちらかを選ぶことを強いられたということでしょう。

ことばを多数使うということになりますと、複雑な翻訳・通訳の助けが必要となってまいります。こうして、ECではその“管理予算”のうち、通訳翻訳という言語サービスの費用が予算の40%の多きものほり、国連では、その“全予算”の15%が同じような目的に使われています。そして、他のことばが追加採用される度に、コストが幾何学的にふえていくのです。

仕上がった翻訳サービスも恐らく立派なものでしょうが、やはり充分平等であるとはいえないのです。ECの多くの作業は、通訳なしの非公式の会合で行われています。そうした非公式でない、半公式の書類の多くは、各会議用語に翻訳されていません。国連に至っては、まだこの上に不利なことが加わります。実際使われて

いるのは、加盟国全部の言葉ではないのです。米、ソ、スペイン、フランスのような国々は、自国のことばを使えますが、日本やブラジルなどの国々は、それができません。単一言語使用か、多数言語平等使用か、どうしてもどちらか一方を選ばなければならないのでしょうか。エスペラント支持者に言わせれば、両方やれるのです。

国際機関にかかわるエスペラントの歴史は、実に目を見張らせるものがあります。1920年、エスペラントが国際連盟の使用言語として提案された時は、もうちょっとで採用されることでした。1945年、エスペラント運動は混乱しましたが、その原因の最たるものは、1930年代から40年代の、ヒットラー、スターリンの手による弾圧で、そんなことから、国連が創設された当時は、エスペラントはまともに見直されることはなかったのです。それ以後のエスペラント採用提案も、主として現存の会議用語の地位がおびやかされるという事で、時には片隅に追いやられたり（1950年代初期）、時にはただ無視されたり（1966年）しました。

国連側からの公式的支持は未だ受けられないけれど、一方エスペラントはこの40年間に、めざましい進展を見せ、多少は公的に認められるようになりました。ユネスコ1954年の決議では、エスペラントが全世界の人々の間の距離を縮める言語の域に達したことが認められ、またUEA（世界エスペラント協会）は、ユネスコと公的なコンサルタント関係を持つことになりました。同じような関係は、OAS（米州機構）との間にも結ばれ、ESC（国際経済社会問題委員会）関連の各団体の一覧表の中にUEAの名前もはいています。国連のいくつかの公式書類にも、もうエスペラントが使われています。1979年から、UEAは国連内に自分の事務所をもっています。この事務所の目的は、国連の当面する言語問題の性格や、エスペラントが提唱する解決策を、国連に理解させる力となることです。この事務所では働いているボランティアたちは、いわゆる“laborgrupoj”関係の人たちです。専門的な助言は、グループ会長の指導を受けたスタッフによって行われています。

UEAニューヨーク事務所は、責任ある多くの事業をしています。会誌の発行を初め、国際会議を開催したり、国連活動の中で、UEAの代表として出席して、エスペラントの首唱者でもあります。ニューヨーク事務所のしごとは、実際には国連内に於けるUEAの仕事なのですが、その方針は、いわゆるハリ計画から得た

教訓を全面的に採用しています。(かつて国連オーストラリア代表で、エスペランティストのラルフ・ハリー氏の計画。)ハリー計画によると、国連にエスペラントを導入するのに、適切な時期を選び、段階的に提言していくようにしようといっています。まず、ある種の資料には、エスペラントも翻訳語として他の言語と併用していく。その一方で、エスペラント講座その他のプログラムを開設して、エスペラントを学習する人たちを助けていく。こうして国連スタッフが他の会議用語学習に参加するのと同じように、これらエスペラント行事にも参加してもらうようにします。

第2に、国連のある記録のうち、他のいくつかの言語に翻訳されなかったものについて、エスペラントは唯一つの記録用語になっていくようにします。こういった作業を、少しずつ国連の記録文書の大多数に及ぶよう、ひろげていくのです。一方、この翻訳で節約された金を、通訳サービスの方にまわします。この目的はこういったサービスを強化し、ある種の場合の中で、他の追加言語を導入するきっかけとすることです。会議の種類によっては、エスペラントは通訳語として導入されるかも知れません。人々が段階的にエスペラントに馴れてくるようになれば、主要通訳語となっていくでしょう。話し合いや質疑をいちいち、他の5カ国語に通訳するとなると、通訳者はいろんな言語で仕事をしなければならぬ、それなら、代りにエスペラントだけで通訳しようということになっていくのです。つまり、討論に際し、自分の国のことばが使える人がふえていき、平等性が促進され、そしてすべての討論がエスペラントに通訳されることになっていくでしょう。

ハリー計画の中で特に面白いのは、その提言が国連での多数言語使用をやめていこうというのではなくて、実際は逆に、各国語の数がふえていくことになるのです。従ってこの計画は、どの国語にも何ら脅威を与えることなく、徐々に、大した問題もなく、認められていくことになるでしょう。勿論こういったプロセスの中では、機械技術が力を発揮する好機となります。コンピューター翻訳にたずさわる人たちは、もうエスペラントに関心を持ちはじめています。機械的にせよ、人間同士にせよ、国連やECなどで、ことばによる意志伝達が機能するために、エスペラントが中心的な交換台となる日が、恐らくいつかやってくるでしょう。もしそれが達成できたら、交流はより効果的に、そしてより平等にものになるのです。

(前田 訳)

MONTE TO VERDAS

近頃の会の様子

◎ 例会 3月 1, 8, 15, 22, 29 の各土曜日

時：午後1時 翻訳研究

2時～4時 会話モメント

輪読「事実とファンタジー」

マジヨリー・フルトン ¥3,000

所：県職員会館 和歌山市徒町1

◎ 朝の入門講座 3月 6, 13, 20の各木曜日

時：午前10時～12時

毎回入門小単位 指導 前田

テキスト「ESPERANTO-1」

フダベスト ¥1,000

エスペラント小辞典

大学書林 ¥3,500

日エス辞典 エス学会 ¥4,800

所：コーポ紀の国 和歌山市鷹匠町

◎ 以上2件：問合わせ 電 0734-22-8660 前田

◎ 和歌山緑丘会会費 年3000円

学生、家族 年1000円

送り先 会計係

〒640 和歌山市 狐島 65の12

牛島 美恵子

TEL. 自宅(夜) 55-1088

勤務先 竹中工務店

33-3791

◎ 大谷さんの「ザメンホフ伝」今回お休み。

★ 今回、たいん おそくなりました。(すみません)
★ 2月14日に「チョコレート」をもらった為、おめでとう、おめでとう、おめでとう、おめでとう、Esperantoの世界でも、white day は「Blanka tago」ですか、と悩んでいる人がいます。

1986年3月3日

640 和歌山市 小松原 6丁目1-6

(TEL. 0734-22-8660)

(編集) 前田 米美

(7-70) 橋本 靖次

(さしえ) 松下 孝代

VERDA MONTETO

Redaktita de MAEDA-Yonemi (du-monata) N-ro 34

Kion ŝi donis al li?
 Lernolibron.
 Ŝi donis al li lernolibron.
 Kian lernolibron ŝi donis al li?
 Lernolibron pri japana lingvo.
 (El Fuku-teksto, 452)



ilustracio
MATSUICHIKI T

2/295

Photo: Isha Nishie Studios



Feliĉan Novjaron

サメシクお祭りの皆様方の皆へ

どうも有難うございました。

お正月は身体の方はいつも体調でございませう
 今年もめでたしめでたし。新年は元気にございませう
 ございませう。この新年は雪も一度は
 降る程嬉しいですね。楽しみにしております
 今年の新年大会お楽しみも参加させていただきます
 でお祈り申し上げます。皆様と
 お祈り申し上げます。

ボートランド
ボートランド



IRELAND, an island, covers an area of 32,674 sq. miles. Its greatest length is 302 miles and its greatest width is 189 miles and no part is more than 70 miles from the sea. The country is divided into four historic provinces, Ulster, Munster, Leinster and Connaught. Ireland's fascination is legendary. The unique beauty of its landscapes and its rich historic literary and artistic associations have long made it a favourite resort for tourists.

Printed and Published by John Rinde Limited, Cabinteely, Co. Dublin, Irish Republic.

緑丘会の
皆々様へ

LETTERO

その1

緑丘漫筆 (9) (最終回)

前田米美

私の手許にあるラ・スーノは8号まで。奥村林蔵先生が大切に保存されていたのを、最近他の色んな資料と共に、私に送っていただきました。第9号まで出たらしいのですが、詳しいことはわかりません。

昭和15年3月、師範学校を卒業した、教師及びエスペランティストの卵3人(前田、松下、吉田)は、西牟婁郡の岩田、東牟婁郡の太地、本宮の小学校に赴任しました。3人とも、昭和15年中に満20才となり、ばらばらに現役兵として入隊しました。

軍隊——これはどうも、漫筆の材料になりにくいものです。もっとも、私のこの漫筆は初めから、田中正美さんの漫筆のような楽しさがなくて、だんだん暗い理屈っぽいものになってしまいました。師範学校卒業生の特典であった短期現役兵制度も、戦争のために廃止され、私たちは戦争中ずっと大陸にいました。敵を殺す技術を磨き、不必要な感情や思想は切り捨てられ、完全な統制の中でわき目もふらず、若さにまかせて、猛進していました。

敗戦の詔勅は、割合おくれる事なく、8月15日に病院で聞きました。私はアミーバ赤痢で入院していました。今から思えば中国は、旧日本軍捕虜に対して実に寛大でした。仇に報いるに温情で、戦犯裁判や賠償要求はなくて、私自身も数人の中国人から、「中国に残らないか。日本へ帰っても、町は破壊され、家族も生きてはいないだろうに。あなたに出来る仕事なら、いくらでもあるよ。」とさそわれました。その腹の太さ、私は有難さと恥ずかしさで、涙が出てしまいました。けれど勿

論すぐにその有難い話に乗るわけにはまいりません。「とにかく日本に帰って、家族の安否を確かめた上で、またお願いします」とお断わりしました。

廃跡の故国に帰ったのは、昭和21年2月の下旬。幸い家は焼け残り、父母は生存。弟の一人が比島で戦死、たった一人の妹が戦後の栄養失調で病死し、もう一人の弟も栄養失調で生死の境をさま迷っていました。教員の俸給ではとても家計が支えきれないので、私は退職し、金物屋さんになって、ただ食うために必死で働きました。その頃、小笠原營至夫氏は、終戦前の昭和20年3月21日亡くなられたことを知りました。78才でした。

エスペラントも、もう駄目かと思っていたら、小笠原学校にいたひとり、早川禎一氏が「また、エスペラントやらないか」となつかしそうに前田金物店に立ち寄ってきました。まだ昭和21年の秋頃だったでしょうか。聞けば、彼が働いている山東鉄工所内に数名のエスペラント研究グループができていたとのこと。

まだ皆がその日の生活に追われているこんな世の中で？と私は、彼の発掘とした熱意におされながらも、躊躇していました。

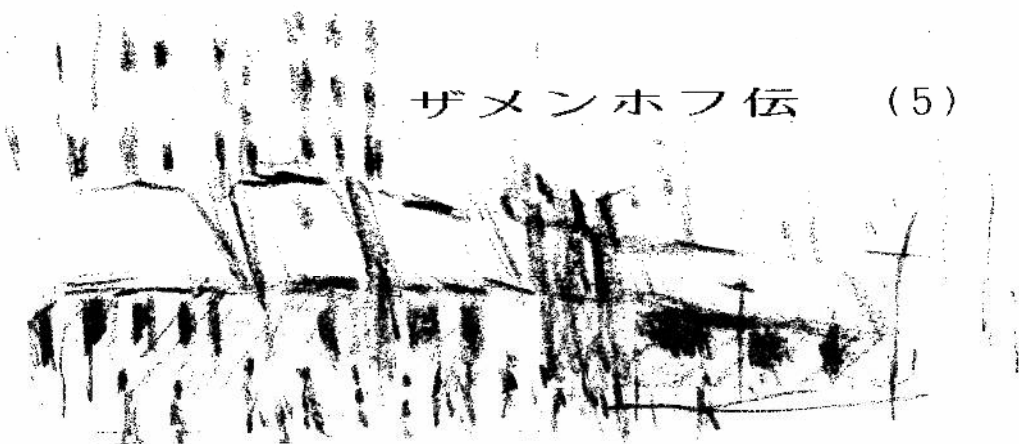
翌年の昭和22年1月には彼等の手で緑丘誌が再刊され、同年の6月15日から毎日曜日初等講習会が開かれましたが、私は戦前戦後の過労で肺結核となって、この頃は寝込んでいました。以来、結核と仲よく付き合いながら、エスペラントの方はやや傍観的消極的でしたが、エスペラントのこの不思議な生命力は一体何からくるものだろうかとつくづく考えていました。

私の「緑丘漫筆」は、この辺でひとまず、擱筆したいと思います。長い間ご愛読ご支援ありがとうございました。

H. Maeda

(昭和61年3月20日)

ザメンホフ伝 (5)



"VIVO DE ZAMENHOF" EDMOND PRIVAT

La kopirajto de la originalo, la Esperanta eldono, apartenas al:

THE ESPERANTO PUBLISHING CO.LTD.

9 Maycock Place, ORELIA(WA) 6167,
AŬSTRALIO.

原作：エドモンド・プリヴァ

翻訳：大谷宏治

タイトルバック：辻千早

けれど、そのような冒険談があるのはやんちゃな兄弟だけで、ルドビコには考えられなかった。父や家族の者は皆、彼のことをまるで大人のように尊敬していたからである。賢くて、控え目で、思慮があり、勉強家で、いつも物静かで、多少頑固なところはあるけれども、常に他人の心を傷つけまいとしていた。クラスでは成績優秀で、文才があった。教師たちも彼を賞賛していた。友人たちは、ルドビコの冷静な行動や、礼儀正しい物腰を見て、『男爵』とあだなをつけた。しかし、彼は、家でも学校でも、決して偉そうな態度を見せなかった。幼い頃は青白い顔をして弱々しかったが、今で

は活発で陽気な少年に成長し、パーティーや遠足の世話係を立派につとめられるまでになっていた。兄弟や仲間たちは、彼を遊びのリーダー、あるいは中心人物として取り巻いた。彼はダンスが大好きだったが、学校の授業で難しい問題が出た時には、とても親切に手伝ってやったりもしていた。

母からこまやかな思いやりの心を受け継いだルドビコは、母を天使のように敬い、慕っていた。病気がちの母を、はためにも心動かされるほどにいたわり、母の望んでいることは何でも敏感に察して、かなえてあげていた。母はもちろん、早くから彼のことをいちばん大切な

宝物のように思っていた。 ルドビコを目に入れても痛くないほどにかわいがった。 彼女にしてみれば、ルドビコほどすばらしい子は世界中どこを探してもいなかったのである。 それは当然のことだろう。 母の愛にまさるものはないのだから。 母の愛というものは、苦しみに耐えつつも毅然として、しかも理解と真心をもって、命ある限り献身し続け、死後もなお心の支えとなるのである。

母と子の似たような愛情が多くの人材たちの中にも見うけられる。 ポープやミュージアやラマルティーヌも母を慕い、大変な恩恵を母親から受けている。 ザメンホフも同じだった。 母は息子が理想主義者に育ち、偉大な人物になることをいつも願い、信じていた。 聖火の輝きのような彼の情熱の炎を、母は敬けんな思いで見守った。 彼女は素朴な女性であった。 だから息子には、人は皆、神の前では兄弟で平等なのだを教えていた。

分別くさい父は、息子を夢から現実に呼び戻した。 また実際にピアリストックの街で身近に起った出来事を、ルドビコ少年は目撃したのである。

ベルダ通りにある木造のザメンホフ家の窓際を、例の長いあごひげをはやしたユダヤ人の一団が通り過ぎた。 雪のつぶてが何発か彼らの顔に当たった。 誰かが目の下をやられた。 血が頬をつたわった。 老人が痛みを訴えると、キリスト教徒の少年たちが、「わめくな、ユダヤの犬め!」とどなった。 それから少年たちは、「フラ、フレ、フリ、フロ、フル」と聞き慣れないユダヤ語をからかって、逃げ去った。 ロシア人の中尉がそれを見て手を打って笑う。「一人前のつらをして道を歩くな、このどろぼう人種め!」と言うと、さげすんだ目付きをして、バッと唾を吐いた。

市場にはたくさんの人々がひしめいている。 足音や話し声で喧騒を極めている。 野菜や籠の間を様々な色がきらめいている・・・リトワニアの田舎から出て来た女たちの緑のショール、羊の毛皮、兵隊たちの灰色の軍服、らくだの毛のマント、ロシアの役人たちの青い制服、白いバンド、赤い襟、金色のわしの紋章、銀色の飾り・・・。 まけろと言いはるドイツ人の客と売子の女が言い争っている。人が駆け寄る。 やじうまがたかる。 憲兵が割って入る。 女がリトワニア方言で訴える。 警察官は言葉が分らない。「ロシア語で話せ!」とその巡査はおどす。「ロシア語だけだ、汚らわしい言葉をしゃべるな!ここはロシアの土地だぞ!」・・・群衆の中で一人のポーランド人が抗議する・・・今文句言ったやつはどこだ?・・・そこにいるぞ。 憲兵がもう彼を捕まえている。 その場にいる者は恐ろしさに、おもわず身ぶるいする。 鋭い銃剣に囲まれて、男は取り押えられ、引たてられる。 村人たちは押し黙っている。 ポーランド人たちは皆敬礼してその殉教者をたたえる。 しかしドイツ人やユダヤ人は帽子をとろうともしない。「あの男、もう我々を馬鹿にすることもないだろう」とあの長いあごひげをはやした男がつぶやく。 ポーランド人の目には怒りの炎が燃えあがり、ロシア人の目には冷ややかなあざ笑いが浮かんでいる。

その人たちはお互いに相手のことがわかっているのだろうか? 彼らにも人情があり、喜びや悲しみが解り、妻や子のいる家庭を愛していることを知っているのだろうか? そんな思いも心に浮かばないのである。 そこにいるのはただユダヤ人やロシア人やポーランド人やドイツ人だけなのだ。 人間ではなく、ただ種族だけなのだ。 皆自分の家には、同じ種族の人た

ちしか受け入れようとしな。ポーランド人の娘がロシア人に心を許そうものなら、両親に罵られて家から追い出されてしまう。リトワニア人のことを「ほんとに田舎もんなんだから」とあざ笑うが、彼らにも詩や民族的自覚があるではないか。ポーランド人は「ロシアの陰謀だ」と言い、ロシア人はロシア人で「ドイツの手先め」と言うのである。誰も、それ以上のことは言葉が通じないので、解っていないのである。スラブ人のお針子たちが夕方の井戸端会議で、ユダヤ人の奇妙なことを話している。「ユダヤ教のすぎこしの祝の二日前になって、あるいたずらっ子の姿が見えなくなったのよ。ユダヤ教会の扉にわけのわからないことが書かれてあってね、その下に赤いしみが見えるの。あんなユダヤ文字なんかわかるはず

ないわ。とっても怖いよ。それにね、教会の階段にいたユダヤ人たちの目付きったら変なのよ。ユダヤ人は秘密の儀式で、いたずらっ子を殺して血をとっているのじゃないかしら？パンやさんたら、ユダヤ人用に、本当に気味が悪い菓子パンを作るんだから・・・」そんなふうにはひそひそと噂話が広がっていくのである。祭が終わればまた、いたずらっ子の姿が街に見られるのに、すでに広がった噂は人々の心に刻まれてしまっているのだ。

そのような中傷に対してピアリストックのザメンホフ少年はずっと前から憤慨していた。人々がそんなひどい誤解をしないようにするには、一体どうしたらよいのだろうか？そのような偏見や挑発こそ、いつの日か、本当に大悲劇を起こしかねないのだから。

ハンガリーの
クートニー・イローナさん ご結婚



新郎は Stefan MacGill、くらま山の Daçjo (David MacGill) さんの長男。挙式は本年3月8日12時ブダペスト14区の結婚サロンで。ご両人は当分、新婦の家が住所になっています。写真は1983年10月、新大阪の喫茶店で、旅行中も寸暇を惜しんでたよりを書くイローナさん。

El malnova kamarado

太地町 松下正行

熊野のkamparo から読者の皆様へ誌上を以て
お便りをさし上げます。

私は会員とは名のみで申しわけありません。
V・M誌も N-ro 34となりました。“統ける”
ということは困難ではありますが、その会の生
命の灯みたいなものだと思います。古いV・
M誌の発足は、もう50年も前のことになりま
す。現在の和太教育学部一帯は、老松生い茂
り、春は若草もえる緑の丘となります。緑の
丘、それがLa Verda Monteto
となりました。

☆ 私はこの旧和歌山師範で多くの友人に恵ま
れました。特に前田米美君は、その温かい人
柄の上でも、学業の上でも、私の最も畏敬す
る友人でありました。彼から多くのことを教わ
りましたが、Esperantoもその一つで
した。私のEsperantoは遅々として進
まなかったのですが、V・M誌の編集とか、小
さな講習会を開いていく中で短いLetero
ぐらいは、書けるようになりました。

☆ その頃、私の文通相手の中にオーストリア
の青年がいました。Nomoは忘れましたが
彼のEsperantoは初心の私にもよく解
りました。“1936年、ナチス・ドイツ軍
が国境に迫ってきている。日本の青年よ！
我々に力をかしてくれないか。”と言った文
面でした。胸がしめつけられる思いでした。

私は自分のエス語力の不足がはがゆく思いま
した。“Vi elportu! tute. Mi preĝas
vian sanon!”とぐらいしか書けませんでした。

た。間もなく、オーストリアはドイツ軍に占
領され、彼との文通も絶えてしまいました。
彼の Fotografajoもあった筈ですが、和歌山の
戦災でなくし、歴史の彼方となりました。

☆ 私たちの身近かに軍靴の音が高くなった
頃、校内で弁論大会が開かれました。クラス
から私と前田君が選ばれました。私は吉田松
陰の話なんかしたと思いますが、前田君は堂
々とEsperantoの思想や、その国際的
有用性を論じました。この発表は、いささか
教授たちを動揺させたらしいのです。即ち、
彼は自由主義者であり、kosmopolit
oであるというのです。私も何とか彼の力に
なりたいたとは思いましたが、むずかしい思想問
題について、何をどうしてよいか解らずハラハ
ラしていただけでした。彼は何回か呼び出され
ていたようでしたが、極めて冷静でした。数
日後、彼は「オイ松下、無罪放免になったよ」
と、にこにこして言いました。私は、かつ驚
き、かつホッとしました。

☆ 19世紀後半、ポーランドの眼科医D-ro
Zamenhofが活躍した時代、彼の
住むビアリストックの小さい町でも、四つの民
族や言語が互いに反目し、紛争のタネとなっ
ていました。そうした状況の中からEspera
ntoが生まれました。異国人と異国人の心
をつなぐ世界共通語Esperantoが、平
和を願う多くの人々によって今日まで支持され
てきました。

それは、21世紀を迎えようとする現在にお
いて、より一層期待されるべき言語ではないか
と思います。

今、V・M誌を手にかけている皆さん、1
行でも2行でもEsperanto文を書けたら
、どしどし世界の人々と文通をしていただき

たいと思います。 よろしくお願ひ致します。

Kun

samideana saluto.

Tute via Macusita

VOJAGEME

Ĉe la unustela hotelo
apud Pariza Nord-Stacio

HASEGAŬA-JOŠIFUMI

La 16-an de Aŭgusto, 1975

Matene S-ro Dijk vekis min je 6:30, pri kio mi petis lin hieraŭ. Ni matenmanĝis simple.

Li donis al mi sandviĉojn, ovojn k.a. por mia tagmanĝo. Li akompanis min ĝis la centra stacidomo kaj donis adreson de pariza studento, kiu tranoktis ĉe lia hejmo en la lasta jaro.

Dijk diris, ke mi telefonu al la studento kaj trovu tranoktejon en Parizo pere de li, ke mi informu al li la rezulton per letero.

Mi veturis per ekspreso al Parizo antaŭ 9:00 a.m. Mi anoncis ĝisrevidon al li, mi dankis lin kaj deziris la sanon de lia patrino, kiu estas malsana. En ĉiu manĝo li preĝas al Dio pri ŝia resaniĝo.

En la trajno, 2 fraŭlinoj sidis apud mi. Ili parolas

francan lingvon sed unu nig-rino povas paroli ankaŭ la anglan. Ili estas aktorinoj kaj iros al Bruselo. Ili estas tre komikaj junulinoj. Ĉe Bruselo ni adiaŭis kun manpremoj.



De tiu stacio, 2 japanoj ekveturis. Ili venis al la instituto en Eŭropo kaj laboras en universitato.

Survoje al Parizo, franca doganisto postulis montri pasporton. En la trajno mi tagmanĝis per la manĝaĵoj donacitaj de Dijk.

La trajno atingis Parizon iom post 2:00 p.m. Mi devis atendi unu horon por ŝanĝi monon ĉe la ŝanĝejo en Norda Stacio, pro multaj atendantoj. La longa atendo okazis eble pro sabato.

Mi intencis telefoni al la studento aŭ al delegito sed mi ne komprenis uzmanieron

de la telefono. Mi provis telefoni diversmaniere sed neniel mi povis telefoni.

Mi fine forlasis la telefonon kaj mi mem trovis hotelon de "unu stelo" apud la stacidomo.

En la hotelo laboris nigroj. Mi pagis 26 f.f. por la ĉambro kun matenmanĝo. Mia ĉambro estis en la 7a etaĝo (la 6a, laŭ eŭropa esprimo). La hotelo estas malgranda, havis ĉambrojn entute 50.

Denove mi iris al la stacidomo por elporti mian valizon el la deponkesto.

奥村林蔵先生から

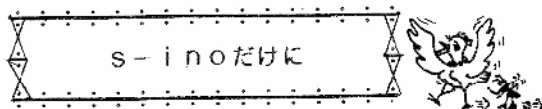
11-marto, 1986

Mi ricevis vian ĉarman afablon donaci al mi la VERDA MONTETO-n, kaj kore dankas.

Mi ĉiam admire legas ĝin.

La "Monteto Verdas" ankaŭ pruvas la bonan enhavon de la societo.

Je la fino de ĉi marto mi emeritiĝos tute el la instruisteco de altlernejo IKUNO.



Monato 11/85より

8月10日、日本で開かれた全国合宿の「性と平等」分科会で、20人近くの参加者がいましたが、未婚の女性に対する“f-ino”ということばの使用問題について話し合いました。エスペラントでは一般に、“f-ino”ということばが使われていますが、未婚の男性に対しての“f-lo” (fraŭlo) という単語は使われていません。しかし、多くの女性は、この区別に対して反対しています。英語では現実にごうして問題を避ける為に“Ms”という略語が使い始められています。私達全員長時間でしたが穏やかな討論の末、エスペラントでは“f-ino”を使わず、すべての女性に対して未婚既婚を問わず、“s-ino”を使うのが最良という結論を出しました。私達というのは、日本、韓国、ハンガリー（以上複数）とスペインからの出席者ですが、今後この問題を、新しい造語を作り出さずに、解決して行ってほしいと思います。新造語は事態を一層まぎらわせることになりましょうから。

MONTETO VERDAS

近頃の会の様子

◎ 例会 4月5, 12, 19, 26, の各土曜日

時：午後1時 翻訳研究
2時～4時 会話モメント
論議「事実とファンジー」
マジョリティー・フルトン ¥3,000.

所：県職員会館 和歌市従町1

◎ 和歌山緑丘会費 年3,000円
学生、家族 年1,000円

(送)先:会評係) 640 和歌山市 狐島65の12
牛島 美恵子

自宅 (宅) 55-1088
勤務先: 竹町書店 33-3791

640 和歌山市 小松原6丁目1-6
(TEL 0734-22-8660)

(編集) 前田 米実 (7-700) 福本 博次
(印刷) 辻 千早 (3-16) 松下 享代

VERDA MONTETO

Redaktita de MAEDA-Yonemi (du monata) N-ro 35

も
く
じ

ザメンホフ伝……大谷宏治……1
Kongresoj ……3
子供向けの 絵入りエスペラント練習シート
……福本博次……4

VOJAĜEME……HASEGAŬA-JOŠIFUMI……6
KORESPONDEME ……
……ノロオ・ホランドさんより……7
……奥村林蔵先生より……8
……池本盛雄さんより
新宮でもやっています……8

ザメンホフ伝 (6)



"VIVO DE ZAMENHOF" EDMOND PRIVAT

La kopirajto de la originalo, la
Esperanta eldono, apartenas al:

THE ESPERANTO PUBLISHING CO.LTD.

9 Maycock Place, ORELIA(WA) 6167,
AŬSTRALIO.

原作：エドモンド・プリヴァ

翻訳：大谷宏治

イラスト：辻 千早

第三章

ワルシャワでの中学生時代

40年後の1905年に、ロシアの軍隊がピ
アリストックの町を夜にも恐ろしい大虐殺の血
で染めた。

「私が生れた不運な町のあちらこちら
で、おのや鉄棒を手にした野蛮人がおと
なしい住民に野獣のように襲いかかりま
した。それは、この住民たちが違った
言葉を話し、違った宗教を信じていると
いうことだけが理由でした。 たったそ
れだけのことで、暴徒は、男や女、よほ
よほの老人、そして無力な子供の頭をた
たき割り、目をえぐったのです……

罪は憎むべき悪者たちの群れにあることは今やまったく明白でした。彼等は、数々の卑劣な手段で、ありもしないことや悪口をふれまわったのです。しかし、この嘘や悪口も、民族同士がお互いにわかりあってさえいたなら、そして民族間に高い壁が立ちただかかってさえいなかったなら、このような恐ろしい結果を招くことはなかったのではないのでしょうか。その分厚い壁があるために、お互いに思っていることが自由に伝えられないのです。また他の民族の人だって、自分たちとまったく同じ人間だし、彼らの文学だって、別にそんな恐ろしい犯罪をそそのかしているわけではなく、我々と同じ倫理や理想を持っているのに、それがその言葉の壁のせいで、見えないのです。壊そう、民族間に立ちただかかこの壁を打ち壊そうではありませんか！」

1906年にジュネーブで開かれた大会で、ザメンホフはこのように演説した。ピアリストックの心優しい少年であった頃、彼は既に同じことを考えていたのだった。彼は、同じ土地に住む人たちが、外国人のようによそよそしいことに心を痛めていた。世界中にみられる憎しみに心を痛めていた。「いつか、大人になったら、」きっとこの悪を取り除いてやるぞと、彼は、子供ながらもその思慮深い頭の中で計画をねり、決意していた。

彼は、様々な空想的な夢をひとつひとつ投げ捨てていったが、ひとつだけだいたいじなものがつも心に残っていた。それは人類のためのひとつの言葉という考えであった。「人々がお互いに理解し合うことさえできたなら、どんな

にか、素晴らしいことだろう！」と彼はためいきをついた。そして子供心に、どんな言葉が全世界で採用されるかを考え続けた。ポーランド人はロシア語を嫌い、ロシア人はドイツ語を快く思わず、ドイツ人はフランス語に我慢ができず、そしてフランス人は英語を受け付けないうだろう。どうしたらいいだろうか？ さげすみや妬みを起こさずに皆を満足させることができるのは、中立的な言葉だけかもしれない。

もしも皆が母国語以外にそんな国際語を習ったなら、国民から国民へとお互いにわかりあえるようになるかもしれない。誰でも直接に意志を伝えるようになるだろう。近隣の諸民族に対する世論を決めるのにも、政治新聞や外交官の挑発的な言葉を盲信して決めてしまうようなことはなくなるだろう。

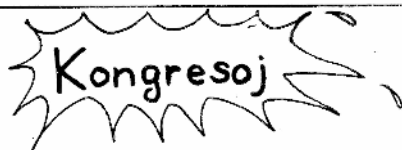
両親と一緒にポーランドの首都に移ったルドビコ・ザメンホフは、ピアリストックの実業学校を去り、ワルシャワの古典中学に入学した。

彼の明せきな頭脳は、一般歴史の奥底まで見抜いていた。実際、授業は全て戦争や政略に関することばかりであった。民族同士がお互いにわかりあえず、いがみあっていたのは、不幸なリトワニアの土地ばかりではなかった。黒幕があれやこれやと民衆を煽っていたのは、ここだけではなかった。強大国の政府はそんなことばかりたくらんでいた。何百年も前から政府は、その時点の政策に合わせて、民族同士を対立させるような世論指導ばかりしてきた。大砲が作られている一方で、既に新聞記者や演説家、それに排他的な愛国主義者の詩人までもが世論を形づくろうと活動していた。

政府の手先があちこちでデマを広め、疑惑を引き起こし、民心を煽った。絵や活字で女性の心を動かし、人々の心をかきたて、憤激させた。これもみな、小さな土地をかすめ取った

り、アフリカの植民地を手に入れたりするためなのである。戦争が勃発した。若者が大勢死んだ。女たちは嘆き悲しんだ。村人たちは家を戦火に焼かれ、路頭に迷った。和平が成立した。国家は十万の国民の命と引き換えに五万の黒人植民地を併合した。将軍たちは凱旋し、太鼓やドラムが打ち鳴らされ、音楽が演奏される。大成功だった。敗戦国は同盟を乞う。怒りは鎮まっていった。これからは良いところを見るようにして、過ちはすべて水に流すことにしよう！しかし、すっかり打ち解けたはずの友人は突然妬み深くなり、「賠償金」を要求する。そうすると今度は報道機関をけしにかけて、また一から始めようではないか！・・・などと言出す。

天才的なこの若者の頭の中で、そんな映像が驚くべき明確さで広がっていった。「壊せ、人々の間の壁を打ち壊せ！」とザメンホフ少年は夢みた。人々は正に黒幕に踊らされている“かいらい”である。お互いの無知からくる誤解を無くさなければいけない！そんなことで得をするのは策謀家たちだけなのだ。外交方針は国民みずからの手で決めるべきだ。国民はお互いにじかに交渉すべきだ。少数の戦争屋の独占を阻止しなければいけない。彼らは何も知らないくせに全権を握っているのだ。壁を倒せ。壁は一斉にばたばたと崩れるだろう。吸血鬼どもは暗闇でしか生きられないのだ。陽よ、輝け。そうすれば、やつらは滅び去るだろう。



★ 第34回 関西エスペラント大会
場所と期日

6月14日(土)みのお山荘

6月15日(日)豊中市立青年の家

「いぶき」

★ 第71回 世界エスペラント大会
場所 北京

期日 7月26日(土)～8月2日(土)

(和歌山から、6人の皆さんが参加します)



★ 第73回 日本エスペラント大会
場所 大阪

期日 8月9日(土)～10(日)

★ 第18回 林間学校
場所 和歌山市 新和歌浦ロッジ

期日 8月14日(木)～8月17日(日)

参加費 3泊8食 21000円



 # 子供向けの 絵入り エスペラント練習シート #
 #####

公文の塾をやっている人と知り合いになった時に、作り始めたのがこれですが、その前に江川さんが作成してくれた Folia-kursoの原稿をワープロで清書していながら、もっと学習しやすいものは作れないだろうか、思っていたのが元になっています。

公文の英語の教材と比較して考えてみると、エスペラントにおいては、同じようなペーパー学習に要する枚数はかなり減らせるのではないかと。またもっと豊富な内容で、ゆっくり進みながら、自然にエスペラントに親しんでいくことができる教材をつくれるのではないかと思ひ始めたのです。何にしても力のない私のことで、作りかけたまま遅々として進んでいません。

作る上でのポイントは

- (1) 目に優しいこと
すなわち絵、イラスト、マンガ、また大きい文字。
- (2) 手を使うこと
自分で書きこんで、学習していく練習型テキスト
- (3) 繰り返し練習
同じ材料を何回も与えることができる
- (4) 用途の多様さ
講習の補助、自己学習用、子供用、通信講座用などです。

今回紹介したのは(本当はまだここより50枚程度しか作ってないのですが)、アルファベットの習ったあとに使える最初のところです。小学生用には、この前にアルファベットの大字、小文字、筆記体文字の練習を単語を書いて

名詞 1

G3 No 1

Nomo

~ O
 オー

物の名前を表わす単語には
 O (オー) がうっています。次の
 単語を読んで書きましょう。

libro

[リープロ]
 (本)



kajero

[カイエーロ]
 (ノート)



krajono

[クラヨーン]
 (鉛筆)



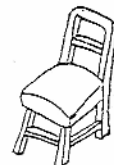
tablo

[タープロ]
 (机)



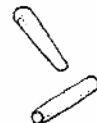
seĝo

[セーグォ]
 (いす)



kreto

[クレート]
 (鉛筆)



練習する部分が必要です。

さし絵やマンガはほとんど描けませんので、辻さんや、松下さんに御協力お願いしました。その他は、イラスト辞典やいろいろな本から借用していますので、ここでおことわりと、御礼を申し上げておきます。

現在の目標は一応とりあえず百枚をめざしています。どなたか一緒に作ってできませんか。

もしも使ってみたいと思われる方がありましたら、福本あてに連絡して下さい。コピー代

の実費と郵送料でお付けします。

実際に自分の子供に使って実験をしたいのですが、小学5年の娘はほとんど関心がありません。強制的に少しやらせてみましたが、まだアルファベットを覚えていないのと、関心がないとで、ここから使うのは難しいようです。文字よりも耳より聞いたことの方がよく頭に残っているようです。単語はいくつか覚えてしまっていますが、それを文字で書くことができません。

またローマ字の書き方と並行して教えてみると、例えば次のように日本人の発音の誤り易いところを文字で表してくれます。

ティグロ→→→tiguro
エスタス→→→esutas
これらは何度も書いたり、注意をしてやれば、誤りは少なくなってきます。

従ってこのテキストの問題点としては、発音をカタカナ表記していることで誤った読み方を覚えてしまうことです。そのため、その正しい読み方を誰かが常に訂正しながら教えられる状態がつけられることが必要です。

出てくる単語を絵も入れたカードにして、それを示して単語を口頭で言わせて読み方を訂正してやることも必要でしょう。

公文は教材を何度も使って十分覚えてから次に進むようですが、エスプラントでは1日に2枚程度続けたら成果がでるのではないかと思います。

(福本博次)

表で習った単語です。単語と発音意味を書きましよう。

<u>tablo</u>	<u>sego</u>	
{ ターブル }	{ セーゴ }	{ リーブル }
()	()	(ほん本)
<u>krebo</u>	<u>kajero</u>	
{ クレート }	{ カイエーロ }	{ クラヨーノ }
(クォーク)	()	(えんぴつ鉛筆)
<u>libro</u>	<u>krajono</u>	
{ リーブル }	{ クラヨーノ }	{ セーゴ }
()	()	(いす)
{ カイエーロ }	{ ターブル }	{ クレート }
(ノート)	(うくえ机)	()

VOJAĜEME

Strata fotisto postulas HASEGAŬA-JOŠIFUMI

街頭写真やにたかられ
たら、どうする？

La 17an de aŭgusto, 1975

Matene mi manĝis ĉe la tera etaĝo de Hotel Paris Nord. Mi planis hodiaŭan vizitadon per mapo de subtera fervojo laŭ la gvidlibroj de eŭropa vojaĝo.

Hodiaŭ estas pluva kaj nuba post longa tempo. Unue mi iris al poŝtoŝtanco per subtera fervojo. La fervojo havas multajn liniojn, kaj havas la 1-an kaj 2-an klasojn.

La poŝtoŝtanco malfermas malgraŭ dimanĉa feriado. Mi sendis bildkartojn kaj paketojn de libroj al aliaj landoj kaj al Japanio.

Poste mi intencis viziti muzeon de Louvre. Survoje mi vidis japanan junulon. Li laboras kaj vizitis Afrikon kaj aliajn landojn longtempe. Pro tio mi envias lin. Nu, mi demandis al li la lokon de la muzeo kaj mi direktiĝis al ĝi. Sed mi ne povis trovi ĝin facile. Mi demandis al paŝantoj sed ili ankaŭ scias ne bone, ĉar ankaŭ ili estas vojaĝantoj.

Survoje mi vidis kompanion de Thomas Cook, kaj mi aĉetis faman hortabelon de Eŭropo. Ĝi kostas multe sed tre utila.



Surprize pluvis sed baldaŭ ĝi ĉesiĝis.

Mi povis finfine atingi la lokon apud la muzeo je la 4:30. Hodiaŭ, dimanĉe oni povas eniri en la muzeon senkoste. Tamen tio estas ĝis la 5-a horo. Tial mi rezignis eniri.

Tiam denove pluvis. Mi staris kun la aliaj sub la arbo en la parko de la muzeo.

Kiam la pluvo ĉesiĝis, unu franco fotis min, kaj li volis postuli al mi tre multan monon por la foto. Mi rifuzis la pagon sed ankoraŭ li postulis. Li diris, ke tio kostas 160 f. Mi erare komprenis, ke tio estas 16 f. Mi marĉandis dirante ke tio estu 10 f. kaj mi donis 10 f. al li. Sed tiam li diris; "120 f.!" Mi forte rifuzis tion kaj demandis lian nomon. Mi intencis sciigi tion al policano. Fine li rezignis postuli monon de mi kaj li redonis al mi 10 f.

KORESPONDEME

ドロテオ・ホランドさんより
(アメリカ・サンタバーバラ)
1986年5月12日

アメリカより
日本の
住居は??



はいけい

お知らせいっぱい、4月18日づけのお手紙、大へんおもしろく読ませていただきました。ありがとうございます。

私の旅行の案、気に言っていただけで、うれしく存じます。今日、伊藤栄蔵さんにも手紙を書きます。そして、8月6日に、大阪か京都か亀岡かのどこかで、私を renkonti (kapti!) するよう、あなたと相談していただく

ようお願いしておきます。いろいろなお気づかいありがとうございます。

和歌山市とか、あなたの家についての説明、大へん興味をそそられました。とくに、私は日本の家をお訪ねしたことはありません。ところで、“Tokonoma” (床の間) て何のことですか？ 私の知るところでは、“tatami” というのは、“dorm-mat” と聞いていますが、あたっていますか？ あなたのお手紙では、六畳の間に “Kaŝebila budaisma altareto” (ふすまでかくせる仏壇) があるとのことですが、奥様は仏教信者ですか？ それとも仏壇はただ仏教信者のお客様が来たときだけ使うのですか？

ご家族の皆さんにすこしでもごあいさつできるよう、ちょっと日本語勉強できたらと思います。“Dankon” “Pardonon” “Bonvolu” “Saluton” などのことばが一ばん大事と思いますが、私の知るところによれば、日本では、これらのことばは、聞く方の人々の年令や地位によって形が変わるそうで、簡単にはまいりません。

世界大会のあとの、日本でのエスペラント行事3つのお知らせありがとうございます。“Friska” て何のことですか？

あなたのお宅にお世話になるのですから、世界大会では、たぶんあなたをさがしたりしないことにします。でも機会があればよろこんでおしゃべりします。

あなたのご婦人向け講座が、8月7日木曜にあるのだそうで？ そしたら、よろこんで出席させてもらいます。ほかの皆さんにも、できればお会いして、まちの名所に案内していただくのもたのしいことです。

ありがたいお見舞いただきましたが、ハワイから帰って、主人も私ももうよくなりました

た。ほんとうは、私のかぜひき5週間ほど続きました。彼はほんの1~2週間でなおっていました。こちらの大学で、私が教えるエスペラントの講座は、ハワイから帰ってから始まりまして、生徒11人は、先週やっと私の第一声を聞いたというところです。

主人の口レンズへのお心づかいありがとうございます。主人もちょっとエスペラントを習っていますので大体わかっています。「お前のエスペラントの友だちの手紙が読めるようになるのが、わしのねらい」などと冗談で申しませんが、全く *ĵaluzo* のつもりはありません。実際、私のエスペラント体験をいっしょになって喜んでくれています。体力的に長い旅行は無理なのです。煙草のみすぎで、肺気腫をおこしてしまいました。(20年前に煙草をやめていなかったら、今日まで生きられなかったでしょう) それで、私の旅行中は家に残ることになっています。



61/4/30

奥村林蔵先生より

Dankon por la V.M. N-ro 34.

La Rjokkju-Manpicu finiĝis. Ĉu ĝi devis esti pli longa? Post la milito kaj por la historio de E-movado en Ŭakajama, pri la reeldono de V.M., ktp. Ĉu?

新宮でもやっています!

\$\$\$ 新宮市 池本盛雄さんより \$\$\$

(朝日新聞新宮通信局)

新宮では1月26日から毎週1回、木の国にちなんで「木」曜日の午後7時から、市職業訓練センターでエスペラントの入門講習会を開いています。最初は新宮市内ばかりでなく、那智勝浦、古座の各町や三重県鷺殿村などから計20人の受講者が集まりましたが、今では半数に減りました。それでも市職員、小学校教諭、英語や中国語の塾の先生、中学生、保母さんなど多彩な顔触れです。

Teksto は会話を重点に置いているので、J E I の講習会でも使っている“*Elementa kurso de Esperanto*”を使用しています。このほか小生がワープロで作ったものも適当に併用しています。

落ちこぼれをなくすため、これとは別に毎週月曜日に小生宅でも「おさらい会」を開いています。6月末に終る予定で、講習生を中心に新宮ESP会を結成しようかと思っています。

北京のUKには新宮から小生と中学生1人が参加する準備をしています。エスペラントを講習だけで終らせないよう試行錯誤しています。森林浴100選に選ばれた市内高田に「国際エスペラント村」を常設するなどの計画も練っています。(5月22日)

1986年6月 640 和歌山県小松原6丁目1-6 (TEL. 0734-22-8660)

(編集) 前田米美

(7-70) 福本博次

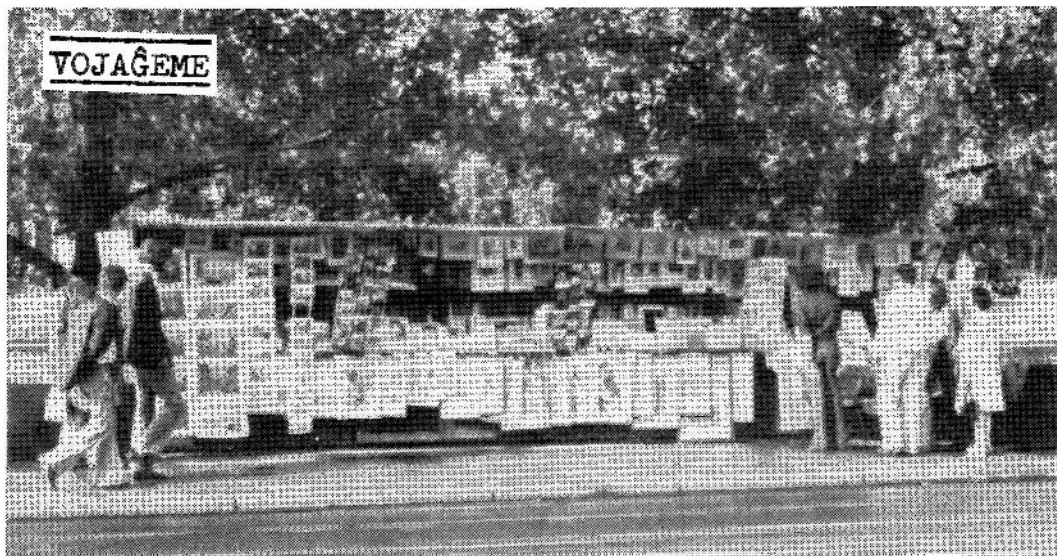
(811バカ) 辻千早

(おひら) 松下尊代

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (du monata) N-ro 36

E	VOJAĜEME HASEGAŬA-JOŠIFUMI 1	子供向けの絵入り Esperanto 練習シート2 4~5
	Esperantoで何ですか? 2	Infanaj tagoj TANAKA-Masami 6
K	Eĥoj al "Rjokkju-Manpicu" 3	EL "MONATO"
 藤木みどりさんより 3	Ne ĉiam Sino 8
J	EL UEA "esperanto" 1986 majo	Pli simple 8
	Kongresa Komuniko: 3	Kion li dirus? 8



Multaj japanoj vojaĝas monde kaj renkontiĝas Parize.

HASEGAŬA-JOŠIFUMI

Denove pluvis. Forte pluvis kaj mia korpo multe malsekiĝis malgraŭ sub la arbo.

Post la ĉeso de pluvo, mi paŝis al la strato St. Michel.

Survoje mi eniris en la parkon por trovi necesejon. Sed mi ne povis trovi, kaj demandis iun kaj li montris ĝin al mi.

La loko estas bele kovrita per arboj tamen la necesejo estis pagata, pagenda!

Mi iris al JISU (Japana studenta Instituto?) por scii prezon de aeroplana bileto al Tokio. Oni indikis tion 1800 f. sur fenestra vitro. La ekflugo estas difinita kaj la prezo estis iom multekosta. Iom poste mi trovos pli malmultekostan bileton ie en Parizo aŭ en Londono.

Nu, kiam mi reiris al la stacio de la subtera fervojo, mi vidis du japanajn junulojn. Unu el ili estas konato. Mi vidis lin iam, sed mi ne povas rememori, kie mi vidis lin, kaj ankaŭ li ne povis. Sed post iom da tempo ni rememoris, ke ni vidis nin en la junulara gastejo en Frankfurto. Ili intencis viziti JISU, kaj tial mi gvidis ilin al ĝi denove.

Ni vespermanĝis en restoracio. Manĝi en restoracio estas tre malofte por mi. Mi pagis 10 f. inkluz. de la servo.

Unu el ili kaj mi iris al Norda Stacio, ĉar li veturos al Kopenhago por aĉeti fotolibron de pornografio donacota al lia japana amiko.

Kaj mi revenis al mia hotelo Paris Nord. La hotelo estas tre proksima al la stacio, eble 2 ~ 3 minutojn piede. Ĉi tie la ĉambro estas malbela kaj altetaĝa, kaj sen lifto.

daŭrigota

エスペラントで

何ですか？

エスペラントというのは、今から100年近く前(1887年)ポーランドでつくられた国際共通語です。この言葉を使える人は、世界で約50~60万人と大へん少いのですが、世界の大きい国に分散していますので、英語とはまたちがった活用法があるわけです。

使える人が少いのでエスペラントだけでフランス(エスペランチストが割合多い国)を旅行したら、「エスペラント? そのことは今でもまだあったの? もうずっと前に消えてしまったか」と思った。という人もあるし、「あなたもエスペラントやってるの? これは珍しい。うちに泊って、エスペラントで喋らないか。」という人もあるわけ。

世界のエスペランチストは大い「ことはのちがいによる誤解をなくして、みんな仲よくして、世界の平和のために少しでも役立つ」という素朴な理想をもっているの、見ず知らずの外国人に対しても、エスペラントを喋る人には気前がいいのです。

エスペランチストとは、エスペラントを使う人というくらいの意味です。

エスペラントそのものには、別に宗教的、思想的なものはありません。だからどんな目的のために使われても、エスペランチストは抗議することはありません。だからこそ、鉄のカーテンの内でも外でも、同じように使われているのです。ただし、エスペラントでお金もうけした人は、まだあまりきいたことがありません。

Eĥoj al "Rjokkju-Manpico"

61/5/17

藤木 みどり (旧姓 花光) さんより

VERDA MONTETOをお送り下さいまして、有難うございます。近頃、年のせいか、めっきり足腰が弱くなって閉口しています。つい筆不精になり、すみません。

N-ro 34 の表紙に、小林ふみ子さん、今マイケル・フミコさんのお便り拜見。2月には3600gのかわいい男の赤ちゃんが生まれ、大喜びなされて、写真も送って下さり、しあわせーばいの様子でした。

緑丘漫筆を読んで、まさまざと昔の事が偲ばれ、あなたも本当に大変だった事でしょうね。

松下君の随筆もなつかしく、それに吉田君たち、私のこと覚えているかな。弟も一しょに写った写真 (V.M. N-ro 25. p 6 右上) で、花光治は当時和中2年生くらいかな。中央大学卒業後、肺結核で昭和23年7月に亡くなりました。飢えと戦っている時代に出会い、薬も無く、今だったら治っていたのにと悲しくなります。

奥村先生はお元気の由、本当にうれしい事です。昔からバイタリティのあった方でしたから。私はエスペラントもすっかり忘れてしまいました。一番頭に残っているのは、トンドロ (Tondro雷)。サンタルチアを歌ったことはよく憶えています。

ガイ博士がおいでになった時、私は皆の前で、「花咲じい」の童話をコチコチになって

読みました。

小笠原氏のお宅でよばれたカレーやちらしずしのおいしかったこと、大阪へつれていってもらった事。

講習の時、福原さんという美人が突然見えられて、写真を写しました。井沼さんも千田さんもいらっしゃいました。

当時、砂山小学校から鈴木先生が来られていましたが、その後いつだったか、和歌山駅近くのタバタビル内の法律事務所に勤めておられ、お目にかかって当時のことをなつかしくお話しいたしましたが、もうやめられているかな。

鈴木ていさんのお宅へは度々電話したのですが、白浜にいる子どもさんのところへ行っても、なかなか帰られないそうで、お姉さまに電話くださるよう伝言をお願いしていましたが、まだお電話いただけません。

気候不順の折柄、皆様くれぐれも御身体大切にがんばって下さいませ。

(文責 前田)

El UEA "esperanto" 1986 majo
Kongresa Komuniko:

Statisitko:

Ĝis la 14a de majo enskribiĝis jam 2 031 kongresanoj. Tiu neatendita nombro kaŭzas gravajn problemojn al la kongresa administracio. Tial ĝi ne ĉiam kapablas sufiĉe rapide trakti petojn kaj mendojn kaj sekve ĝi petas komprenemon de la aliĝintoj.

 # 子供向けの 絵入り エスペラント練習シート 2 #
 #####

6月14～15の関西大会に参加した時に、
 同室になりました岐阜の脇坂さんと吹田の木下
 さんにこのテキストを見ていただいたところ、
 送ってほしいということで、後日N-r042
 までのコピーを送りました。 またその際いく
 つか助言もしていただきました。 今後使って

と言うんですから、もう土台から違います。

「子供向け絵入りエスペラント練習ノート」
 の原稿をずしり手にして、ご労作心から敬服
 いたしました。

ti-guro、esu-tasuの問題で

みでの意見も聞かせていただける
 ものと思っています。

また、奥村林蔵先生より早速お
 手紙をいただきましたので、ここ
 に紹介させていただきます。

日本の子供とエスペラント

日本の子供にエスペラントを教
 えること——いろいろ考えます
 ね。 小5のお嬢さんのこと、
 「そんなもんだらう」と思いま
 す。 私も昔、中1の長女、つづ
 いて小6の長男に文通させて長つ
 づきせず、又今小6の孫娘が1回
 切りでやめました。 何しろ日本
 に居ては四方八方日本語、日本文
 字ですからね。（多少の横文字
 の看板があってもだめ） 四面
 楚歌、四面日本語ですから。 あ
 るdenaskaの家は、祖父が
 イギリス人、祖母がドイツ人、父が
 フランス人、母がギリシャ人、す
 んでるところがイタリーの……

93 No.2 Nomo

めいし 物や人を表わす単語は名詞と
 名詞 呼ばれます。 O (オー) の付いた
 ~O オ- 単語を読んで書きましょう。

arbo	hundo	lernanto
{ アルボ }	{ フンド }	{ レルナント }
(木)	(犬)	(生徒)
		
knabo	patrino	instruisto
{ クナーボ }	{ パトリノ }	{ インストルイスト }
(少年)	(おかあさん)	(先生)
		

すね。これに対して私は次の2方法を考えます。

(1) そのまま見逃す。ほっとく。かなり進んでから、「実は、本当は……」と訂正を始める。とっ鼻からきびしいしつけをして3日で逃げ出されるより、ほめておだてて1年つけさせた方が……よいと思うのです。「初めの悪い癖は直しにくい」のは事実です。ですが、行儀よくして3歳で死ぬ子と悪たれで小、中と育ってゆく子とどちらがほしいか。

(もちろん行儀よくて、小、中と健康で育ってくれたら、一番よいのですが……)

(2) カナのつけ方に工夫。1シラブルで切ってみる。

ti-gro ta-blo

又は tigro tablo

そして大宇、小宇を十分つかう。

ティーグロ、 ティーグロ、 タープロ

タープロ など、そして又

ta, ti, kre, kra, je, jo,

gro, blo などの練習の部

も作ってみる。

とにかく大事な仕事です。御健闘をいのります。

P. S. 余談になりますが、今私はこんな事にこだわっています。

なぜエスバラントと、カナで書くとき、エスバラントとなるのかしらと。 estas も エスタスと s を s+u とかきます。

s は sa でも so でも su でもないのだから、とくに su とカナでかく理由がみあたらない。だとすれば、エソバラント、エサバラントとかいてもよさそうなもの。

(以上奥村先生のお手紙より抜粋)

この練習シートはG1からになっていますが、その前にアルファベット大文字、小文字、そして筆記体の練習部分が必要です。これにはC~Dをあてます。またGの内容は、動詞は est i のみとして kio, kiu, kia, kie に対する答えの文が作れるように代名詞、名詞、形容詞、副詞、前置詞を導入します。(福本博次)

なま 読み 読み 読み 読み 読み 読み
習った単語、発音、意味を書きまわす。

struisto arbo

【ストリスト】 【アルボ】 【クナーボ】

) () (しょうねん
少年)

rela... patrio

【ランド】 【レルナント】 【パトリーノ】

) (せいと
生徒) (おかあさん)

rela... kuro

【ラント】 【アント】 【クナーボ】

) (いぬ
犬) ()

トリーノ】 【アルボ】 【インストリスト】

かあさん) (き
木) (せんせい
先生)



Infanaj Tagoj

TANAKA—Masami

Mi ne memoras klare de kiam mi kutimiĝis sidadi antaŭ la skrib-tablo en profunda nokto post ĉiutaga okupo kaj legi esperantan libron aŭ fari ian ajn skribaĵon.

Antaŭe mi povis teni min longe en sama pozo, sed lastatempe, ĉu pro mia alta aĝo, post mallonga tempo al la tabliĝo, dormemo ŝtele venas al mi kaj invitas min en la mondon de sonĝo tre fantazia.

Dum sonĝado troviĝas diversaj rememoraĵoj, kiujn mi spertis en infanaj tagoj jam multajn jarojn antaŭe forfluintajn. Sur la prezentita sceno en sonĝo multspecaj aferoj aperas unu post alia, unuj estas feliĉaj kaj ĝojigaj, aliaj pentoplenaj kaj maldolĉaj.

Estas admirende ke la spertoj en malnova tempo ankoraŭ nun restas latente ĉe angulo de mia cerbo kiel mia kara historio.

El la rememoraĵoj, hodiaŭ mi volas reaperigi unu pli reale antaŭ vi.

La urbo KOKURA, kie mi naskiĝis en la jaro 1913, antaŭ sepdek tri jaroj. Mia loĝejo estis unu el la domaro, kie loĝis laboristoj de iu

ceramikaĵa fabrikejo, proksime troviĝis grandaj kazernoj kaj vasta ekzercejo por infanteriaj soldatoj.

La gepatroj eliris preskaŭ ĉiutage frumatene por labori lasante min sola en la domo, kaj revenis malfrue vespere samkiel najbaraj homoj, tra tago la strateto fariĝis morta, nur kelkaj infanoj videbliĝis sur la vojo.

En iu tago mi estis ludanta kun ĉarma knabineto, de kiam kaj kiel ni inter-amikiĝis unu kun la alia mi ne memoras, sed verŝajne ŝi loĝis en la sama domaro kaj havis saman aĝon kvar aŭ kvin.

Ĉiutage mi pasigis horojn kun ŝi kvazaŭ ni estus kolomba paro, eĉ tagmanĝon ni prenis ĉe ŝia domo, mia tagmanĝo estis kutime unu moĉio, sed la ŝia estis rizo-globoj kun peklita umeo, kiujn ŝia patrino preparis por ŝi antaŭ ekiro al la laboro.

En iu tago kiam mi ludas sur la vojo kiel ĉiam kun ŝi, mia-patra voĉo aŭdiĝis, li vokis mian nomon kun kolera tono, "Ma! Ma! tuj venu"

***** iom komente *****

Ĉiufoje la gepatroj vokis min per "Ma" ŝparante vortojn. (neniu el vi, legantoj, povus voki mian nomon "masami" pli mallongite ol "Ma")

Kio okazis!

Interrompinte la ludon kun ŝi, mi haste revenis al la domo, kie la

gepatroj atendis min.

Apenaŭ mi alvenis al la sojlo, la patro subite kaptis min je la kapo kaj estis forprenonta min al alia loko ekkraĉante vortaĉojn al la patrino.

“Ma’ estas mia filo. Neniam vi povos akompani.”

Inter gepatroj okazis ne ordinara konflikto, mi ne bone komprenis kio okazis inter ili. Mia supra korpo ekestis en la brusto de la patro, tiam la patrino kun alta plorkrio impetis al mi kaj kaptis miajn piedojn per ambaŭ manoj kaj forte tiris mian malsupran korpon.

“Ma’ estas mia!”

“Ma’ estas mia kara.”

tiel kriante la patrino ploris por min forrabi el la manoj de la patro.

Interrabado inter ili daŭris kelkajn sekundojn, la patrino pli forte kaptis min por foriri eksteren kun mia korpo.



Surprizite mi ekploris per laŭta voco pro troa timigo kaj doloro, sen

konscie mi baraktis piede kaj forte piedbatis la bruston de la patrino. La duone frenezinta patrino, aŭdante mian dolorkrieton, momente malbrakumis mian korpon.

Ĝustatempe la patro sukcesis forporti min al alia ĉambro. Mi vidis la patrinon, kiu estas plore singlutante foriranta eksteren tute nudpiede.

Post kelkaj monatoj mi kaj mia patro translokiĝis al nova loko. La nova loĝejo estis en kvartalo de korbominejo. Senherbaj nigraj montoj vidiĝis tie kaj ĉi tie. Ili estis karbo-rubaj montoj.

Kiam vesperiĝis, mi staris longe antaŭ la domo atendante la patrinon sed ĉiam vane ŝi neniam aperigis sin antaŭ mi.

Mi ekploris kaj ploris, vokis ripete al la patrino “Okan!”

La nigraj montoj antaŭ mi fariĝis giganta monstro kaj pli kaj pli alproksimiĝis al mi.

Helpu min Okan!

Mia sonĝo malaperis ĉi tie.

**** komente ****

“Okan” signifas patrinon en la dialekto de Kiuŝu.

Tanaka Masami

El "MONATO" 2/86

Ne ĉiam S-ino

S-ino はかり というのは どうもね。
 Ikuko Kitagawa-Yazima, prezidanto (kial „prezidanINO“?) de la fak-kunsido pri Sekso kaj egaleco, skribis (MONATO 11/85) ke oni komencas uzi „Ms.“ en la angla por virinoj. Fakte dum multaj jaroj en Britio, kiam oni ne scias ĉu virino estas sinjorino aŭ fraŭlino, oni kutimas skribi sur la koverto de letero „M/S“ (anstataŭ Mrs, aŭ Miss). La nova formo „Ms.“ estis enkondukita de feministoj. Mi opinias, ke la ekvivalento en Esperanto estus „-ino“. Multaj ne-feministoj preferas, ke oni adresu ilin per „F-ino“ aŭ „S-ino“. Do, mi proponas ke oni ne adoptu la sugeston uzi ĉiam „S-ino“ por adresoj.

Henry D. Palmer, Britio

Sekso kaj egaleco 性と平等
 adopti 取り入れる 採用する
 enkondukita 導入された
 feministoj 男女同権論者
 ekvivalento 相当語

1986年 7月

(編集) 前田米美
 640 和歌山市小松原6丁目1-6 (TEL.22-8660)
 (7-70) 橋本博次
 (51元) 辻千早
 (お200) 松下孝代

El "MONATO" 2/86

Pli simple もっと簡単にやっては?

Por respondi al Ikuko Kitagawa-Yazima (MONATO 11/85, p.5): Kial ne solvi la problemon ankoraŭ pli simple skribante: Al Yoko I...; Al Taro N...; Al Anna B...; Al Maurico M...?

Maurice Merger, Francio
 (La redaktoro de MONATO jam de multaj jaroj faras tiel, ĉar tre ofte oni tute ne scias, ĉu fremda nomo apartenas al viro, virino, fraŭlino, ktp)

Ĉu fremda

外国の人の名前が、男性のものか、女性のものか、未婚女性のものかどうか

先月号 N-ro 35 誤植訂正

1頁(表紙) ザメンホフ伝

左の段 下から2行目

「夜にも恐ろしい」→「世にも恐ろしい」

おことわり

大谷宏治さんの「ザメンホフ伝(7)」は、本号 お休みいただきます。

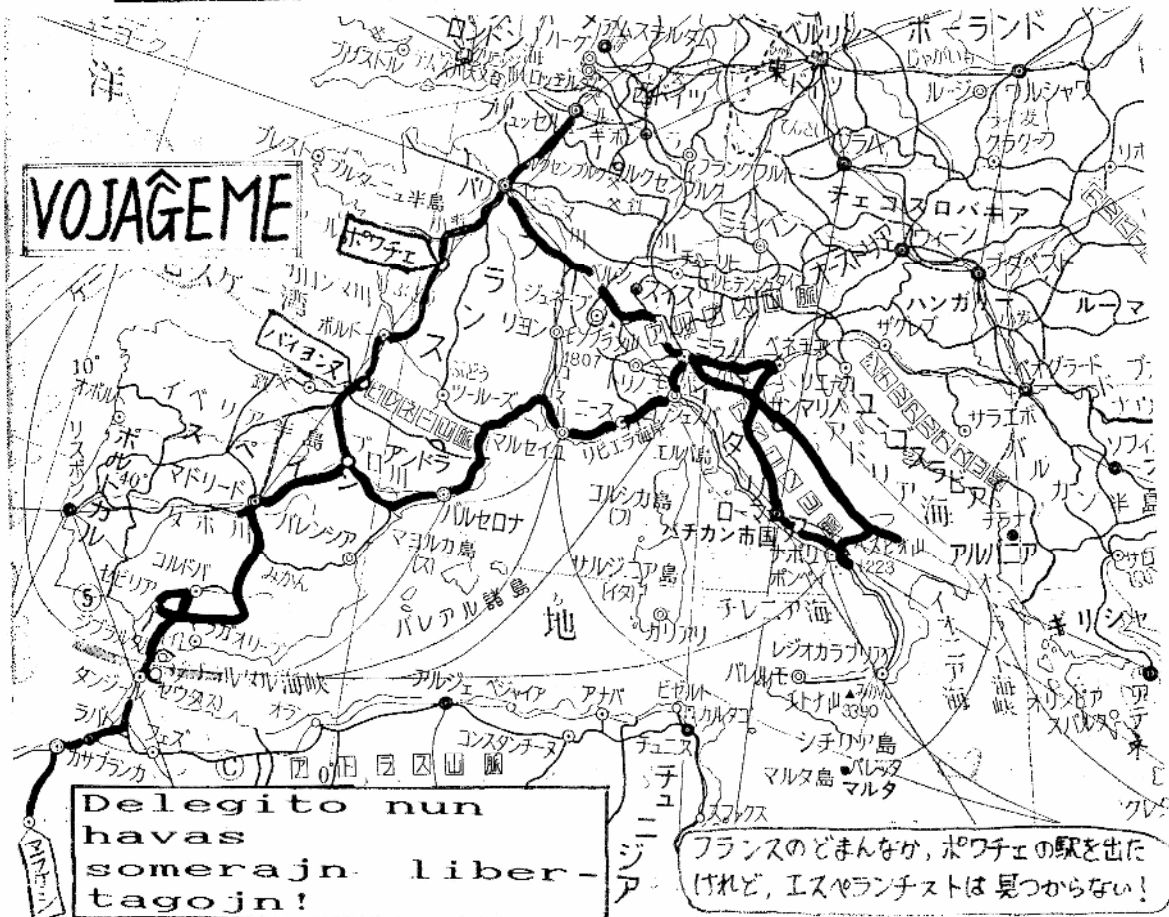
Kion li dirus ?



彼はいったい何と言うでしょうか? セリふを
 考えて下さい。長くても短くても結構です。某書で
 前田米美宛にお知らせ下さい。名セリふ、迷セリふどちらも
 大歓迎。I? 賞品は? ですか! 何言えんの
 まず参加することに意義があるんですよ。***

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 37



HASEGAŬA-JOŠIFUMI

La 18an de aŭgusto, 1975
Mi foriris de la hotelo Paris Nord antaŭ tagmezo. Mi veturis per la subtera trajno al stacidomo Austerlitz. De tie mi denove veturis per alia vagonaro je 12:10, sed tiam mi ankoraŭ ne decidis, kie mi survoje elvagiĝi, tamen destinita loko estas Hispanio.

En la vagono mi decidis elvagiĝi ĉe stacio Poitiers pro ke tie vesperiĝos kaj tie loĝas delegito trovata en la jarlibro. Mi tagmanĝis en la vagono. En la vagono mi parolis iom kun franco najbara, kiu povas paroli anglan lingvon. Li elvagiĝis en Orleans.

Je 3:22 mia trajno alvenis

al Poitiers. De tiu stacidomo mi telefonis al la delegito, pastro. La uzmanieron de la franca telefonaparato mi jam estis instruita de la najbara franco. Neniu respondis al mia telefono. Kiel kutime, mi enmetis mian valizon en la ŝloskeston de la stacidomo. De nun mi mem serĉos mian hodiaŭan tranoktejon. Antaŭ la stacidomo troviĝis multaj hoteloj, kvankam la urbo estis ne tre granda. Unue mi vizitis unu malgrandan hotelon. La mastro ne povas paroli anglan, kaj la ĉambroj estis plenaj. Poste mi vizitis alian hotelon "Modern Hotel" unustelan. La mastro povas paroli anglan. Mi luis la plej malmultekostan ĉambron, 24.5 ff, sen matenmanĝo.

Mi decidis tranokti hodiaŭ ĉi tie. Mia ĉambro estis en la dua etaĝo, kaj pura kaj havas lavejon, simplan necesejon kaj plie la liton duoblan.

Tie mi demandis al la mastro la loĝejon de la esperantista pastro. Li sciigis tion al mi bonkore. Ĝi estas proksime de ĉi tie. Mi iris tien piede kaj ĝi troviĝis sur monteto. Bedaŭrinde li ne estis hejme, troviĝis papero pri lia foresto sur la pordo. Eble li nun havas somerajn libertagojn.

Kaj mi aĉetis kuleron, persikon kaj kolbason en magazeno "Printemps". Vespere mi skribis b.k. al S-ro Dijk pri lia konato, esperantista studento, en Parizo.



ザメンホフ伝

(7)

"VIVO DE ZAMENHOF" Edmond Privat
La kopirajto de la originalo, la
Esperanta eldono, apartenas al:
THE ESPERANTO PUBLISHING CO. LTD.
Maycock Place, ORELLIA(WA) 6167,
AUSTRALIO.

原作：エドモンド・アリヴァ

翻訳：大谷宏治、タベタカ、辻千早

ザメンホフは熱心にギリシャ語とラテン語を学び続けた。そのような古代語をよみがえらせ、共通語として利用すべきだと、一生懸命に世界中を遊説している自分の姿を思い描いてい

た。アレクサンドリア時代の進んだ世界では、いたるところでギリシャ語が話されていたのではない。輝かしいルネッサンス時代には、ヨーロッパの学者や知識人はみなラテン語で論じていたのではない。カルビンやエラスムスは20カ国の国民のためにラテン語で著述したのではない。

しかし、ラテン語は難解で、無用な、古めかしい表現形式が多く、現代的な表現法に欠けている。理想の言語は、現在でも通用する、もっと簡単で、使いやすいものでなくてはいけない。学者ばかりでなく、一般庶民もすぐ学べ、使えるものでなければいけない。

一日中必死に働いている労働者や貧しい人々のことを、中学生のザメンホフはますます思いやるようになった。彼は、家族が揃ったところで、ゴリキーの先輩であるロシアの詩人ネクラソフの詩の一節を朗読するのが好きだった。彼が敬愛してやまない詩人ネクラソフは、苦しみや悩みを、そして死と貧困が跳梁しているあばら家を歌ったのである。ザメンホフは生涯上流社会には近づかず、勤勉な民衆を愛しそのような人々の住む街に住むのを好んだ。

民族間の最大の犠牲者は、結局そのような庶民なのである。虐殺が始まると、いつも彼らが真先に血祭りにあげられるのである。世界中で貧しい人々が平和と生活向上を切望していた。夕方たくたくに疲れて暗い我が家に帰って来ると、彼等は明るい輝きに思いを馳せ、海や国境を越えて仲良く手を握り合う夢を見るのである。「万国の労働者よ団結せよ！」というスローガンがやがて民衆の合い言葉となっていった。しかし、厚い壁が彼等の間に立ちはだかっていた。とりわけ言語は最大の障壁であった。壊せ、その壁を打ち壊せ！と若きザメンホフは心の中で叫んだ。人類のための補助語は誰にとってもやさしいものでなくてはいけない。速習できること、論理的であることがその言葉の基本でなくてはいけない。

その時からザメンホフは、人間の手によって何か新しい言葉が創れないものかと模索し始めた。

言語というものは、ただ論理だけに基づいて、人工的に創れないものだろうか、と若者は自問し、語彙の素材を探し求めた。ba, ca, da, be, ce, de, ab, ac, ad, eb, ec, edというように、できるだけ短い単語を作って、それぞれに一定の意味

を勝手にくっつけていったらどうだろうか？

これはだめだ、とすぐにわかった。そんな単語は、自分でも覚えられなかった。そんなものを覚えるのは人間業ではなかった。

言語は、それ自体生きようと思うなら、生き生きとした単語がなくてははいけない。ヨーロッパ諸言語に共通の源泉から言葉をすくいとることが解決策であった。ラテン・ゲルマン系の語彙が一番国際的であろう。イギリス人、フランス人、スペイン人、イタリア人、オランダ人、ドイツ人、スカンジナビア人、それにスラブ人だって、ラテン・ゲルマン語には非常にたくさんの共通要素があることを知っているだろう。hora(時間)、karto(カード)、vino(ぶどう酒)、bruna(茶色の)などの単語は13から20カ国語にわたって共通している。それを採択するのは、言ってみれば、多数決のようなものだろう。しかし、人類の言語を創りあげるのは、とてつもない大事業である。豊富な文法、分厚い辞書、何万もの言い回しを思うと、若きザメンホフはひるんだ。どうしたら言葉を完成できるだろうか？

ある日、彼は、街を歩いていて、ハッと閃き悟ることがあり、ホッと安堵の吐息をついた。「ある時、中学の6年生か7年生の頃、私はたまたま前に何度も見かけたことがあるsvejkarskaja(門衛所)という表札に気がつき、またその後でkonditorskaja(菓子屋)という看板に気がついた。この-skajaという語尾に興味を持ち、ひとつひとつの単語を別々に覚えなくても、接尾辞でひとつの単語から別の単語が作れることに気がついた。私はすっかりその考えのとりこになり、突然足が地についたのを感じた。恐ろしく大きな辞書の上に乗る光が射し、辞書はみるみるうちに小さくなっていった。」

(次号へ)

先月号 N-ro 36 誤植訂正

3頁 **をいれて上から5行目、左の段。
(旧性 ...) → (旧姓 ...)

[ワシ 性転換なんかしてないヨ]

 # 子供向けの 絵入り エスペラント練習シート 3 #
 #####

《家庭でのエスペラント》 前田米美

親子兄弟など家族の中で、何かまとまった学問的なことを「教授」するのは、なかなかうまくいかないものです。

近頃、本誌のある熱心な読者からいただいたお手紙(ご本人の許可を得ていないので匿名にさせていただきます)にこんなのがありました。「孫(小6年)にエスペラントの絵の単語を見せて、覚えよといえ、アツという間に覚えます。すると、そばにいたママが、エスペラント今覚えさすと、これから英語の基礎をしっかりと習わねばならないから、ややこしくなる、覚えさすの、やめといてという。私達は昔の中2、3年頃から始めたのに、別にその当時は欲もないから、何の抵抗もなしに過ごしてきたのに。孫は hundo や knabo などといって喜んでいますが。」

ベテランのエスペランチストでも、奥さんや子供さんとは聞けば頭をかく方もかなりあります。

私もその通りで、せめて孫にと思って、上の孫娘が2~3歳の頃、自転車にのせて公園へ遊びに行くとき大変喜んだので、「bicikloで公園へ行くか?」といているうちに、bicikloというエスペラントを聞いただけで、目が輝くよ

うになりました。

biciklo にのせて走っているうちに、目についた hundo、pasero、hirundo と教えるでもなく、話かけるでもなくやっているうちに、ハツと気がついたことは、... この子が幼稚園へ行くようになってから、先生に絵本で

名詞3

G3 No 3

Nomo

次の単語を書いて、おぼえましょう。

bildo floro pordo

[ビルド]

[フローロ]

[ポルド]

(絵)

(花)

(戸、ドア)



glaso pomo fenestro

[グラス]

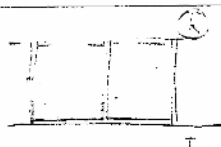
[ポモ]

[フェネストロ]

(コップ)

(りんご)

(窓)



「これなに？」と聞かれた時、

「hundo」となるとマズイト。

しかし大好きな kaštano くらいなら、大事件になることもなかろうと、大いに使いました。

下の孫娘が幼稚園へ行くようになってから、朝食卓で顔を合せた時、

「Bonan matenon, Saluton, Ĉu vi dormis bone? Dankon.」

と、毎朝1回きり、4、5日くり返したら、2人と、毎朝1回きり、4、5日くり返したら、2人と、笑いながらいわれた時は、ちょっとビックリしました。

7、8回目くらいに、「これ、何のイミ」とご質問。（しめたと内心思ったが、顔に出さな

いで、さっと説明しておく。）
ところがある時、園長先生と世間話の中で、「この頃、陽子ちゃんは、朝は日本語しゃべって

くれませんか」
（もちろん、園長先生は私のエスペラントのことよくご存知。）

と、笑いながらいわれた時は、ちょっとビックリしました。

朝、担任の先生から、「おはよう」

といわれた時、Bonan matenon から Dankon まで一気に申しあげてごあいさつした、というのですから、これまたマズかった。

「陽子、やっぱり幼稚園では、「先生、おはようございます」の方がいいよ」と撤回した次第でした。（以上、前田）

わが家のEの状況

福本博次

家族のものはまったく関心がなくて、先日ハンガリーとポーランドの人をお泊めした時も、「サルトン」のあいさつもできない次第でした。ただし、妻の方は旅行が好きなせいか、ポーランドへ行く気になっていて、口ではエスペラントをやらんといかんと言っております。外国のエスペラントを泊めることで、いやおうなしにエスペラントをしゃべることになって、今年の夏は林間学校も含め、私にとっても大きな勉強の機会になりました。

おぼ なる りんご かんご いオ 不
表で習、た単語です。単語と意味を書きましよう。

pomo — bildo — fenestro

〔ポーモ〕 〔ビルド〕 〔フェネストロ〕

() () ()

floro — glaso — hundo

〔フローロ〕 〔グラスソ〕 〔ホルド〕

() (コップ) ()

bildo — pomo — fenestro

〔ビルド〕 〔ポーモ〕 〔フェネストロ〕

(え 絵) (りんご) (まど 窓)

glaso — floro — hundo

〔グラスソ〕 〔フローロ〕 〔ホルド〕

() (はな 花) (と 戸 ドア)



大はしゃぎ、この夏、北京にて。

Wakayamaj Virinoj Mirigis Pekinanojn!



PANDO: "Bela japana esperantistino vizitis mian zoolo-
gian ĝardenon en Beijing kaj salutas min. Tamen ŝi
fotis, ne min, sed sin mem!"



Ho! Ĉu vere? Ŝi aspektas tre serioze, eĉ tro!
Ne kredeble. Ŝi kutimas esti ludema, S-ino Uenaka.



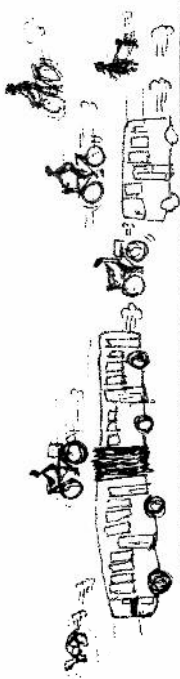


85 731

S-ro Ĉin ŝajnas iom laca. Tra la mondo, akompani butikumantajn virinojn estas ege laciĝe.



Tri belaj ĉinaj junulinoj. Ili tre afable kondukis nin al la Pekina komerca kvartalo "Ŭang pu ĉin" per speciala aŭtobuseto nur por ni.





Okupita tra kongreso!
 Post apenaŭa fuĝo el la programeroj, ĝui marĉandon en butikoj, babiladi kun gesamideanoj el Ŝandong provinco, viziti al la handikapula domo kun bonintenco kaj ĉasi nekonatajn. (ĉe Jingshan-parko kun geesperantistoj el diversaj landoj) 景山公園
 (江川氏 提供)

MONTE TO VERDAS
 緑丘会のうごき：例会日誌より 高橋千恵子

きらめく夏
 和歌山へすてきな虹のかけ橋が
 ヨーロッパから アメリカから
 かかりました。
 サルートン！ 自己紹介は
 あとで いいんです。
 サルートン！
 ずっと以前からの
 友人のように なるんです。

7月19日(土) 長かった梅雨も明けて晴。Verda Monteto 誌の発送も終え、夏のきりりつまった planoj を前にして皆神妙な面持ち。

7月25日(金)～8月3日(日)まで 北京第71回世界エスペラント大会に 6名参加。日本は酷暑だったというのに、北京到着日は C26° 北京市の雨後の緑の美しかったこと。

さて、大会中勉強した人、しないで遊ぼうとけしかけた人、いずれも意欲深い大会でした。とにかく Esperanto でないと話が通じないから 自称 komencantinoj も相当しゃべった者。

8月3日(日) (拂国の朝) もう一度来たいね。次の大会こそ Esperanto 会話がペラペラのペラになって参加する。どっさり収穫を身につけて、一同向学心に燃える。

8月6日～8日 アメリカのシルバーはね駒そっくりの Doroteo Holland さん来和。木曜会の主婦 KLURO の仕上げた浴衣のよく似合う素敵なお人。海外の大会は9回目とか。S-ro 前田の友人 (Eksterlandaj Amikinoj) はなぜか美人揃い。

8月9日～10日 大阪の日本エスペラント大会に、S-ro 福本、S-ro 江川 参加。

8月12～15日 中国大陸の広さに比べれば、京都なんてお隣。S-ro 前田すごいパワー、京都でアメリカの旧友 Esperantistoj のお世話。

8月13日～14日 北京大会で Cshe-Metodo の講師をしていたハンガリーの S-ro Eva Farkas-Tatar さんが nepino (17才) と来和。S-ro 福本宅で宿泊。元ハンガリー放送のアナウンサー だけあって美しい発音が印象的でした。

8月14日～17日 国民宿舎新和歌山ロッジで、関西エスペラント連盟と和歌山緑丘会主催でエスペラント林間学校開かれる。S-ro 福本 講師をつとめる。

8月28日～30日 ポーランドから Ryszard, Zofia 夫妻が福本さんを訪ねて来和。和歌山城 紅葉谷 など案内。

9月3日 6日 11日 翻訳研究部、土曜例会、木曜婦人部例会 それぞれ新しい活気に満ちて始まる。



1986年 9月

(へんしゅう) 前田 米英
 (わ-ぶろ) 福本 博次
 (たいさくば) 辻 千早
 (たいてい) 松本 喜代

〒640 和歌山市小松原6丁目1-6

TEL 0734-22-8660

「10月号」

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 38

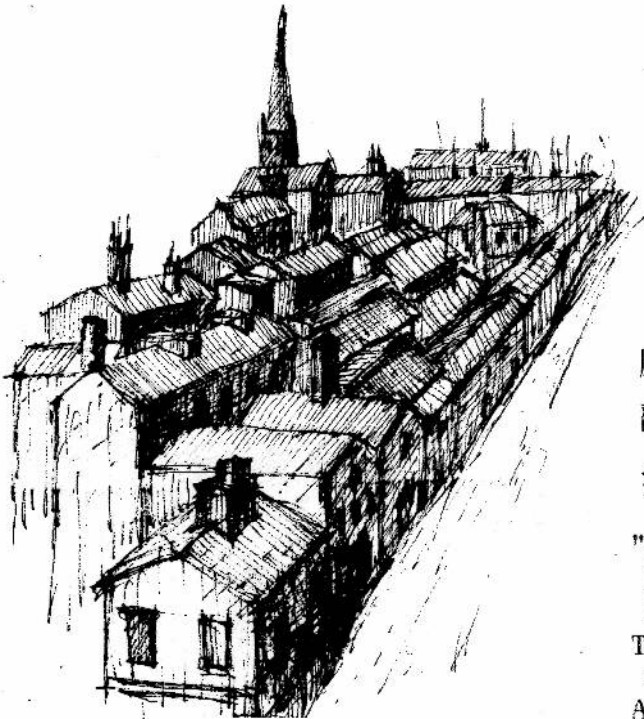
も ん じ	ザメニホフ伝 ----- 大谷宏治 -----	2 ~ 3
	VOJAGEME ----- HASEGAŬA-JOSIFUMI -----	3 ~ 5
	Ŝovinismo ----- Yonemi Maeda -----	5
	アフリカ・アチエ・ストツ・ホンゴン・ポーランドから -----	6 ~ 7
	ザメニホフ祭です! -----	8



Bela pola sinjorino
ĉarmis ĉiujn ĝis la sino. (foto; Fukumoto)

ザメンホフ伝

(8)



原作：エドモンド・プリヴァ

翻訳：大谷宏治

タイトルバック：辻千早

"VIVO DE ZAMENHOF" Edmond Privat
La kopirajto de la originalo, la
Esperanta eidono, apartenas al:
THE ESPERANTO PUBLISHING CO. LTD.
Maycock Place, ORELIA(WA) 6167,
AUSTRALIO.

その時からザメンホフは色々な言語の接尾辞や接頭辞の研究に没頭した。なんと豊かな泉だろう！なんと素晴らしい成長・拡大能力を持っていることだろう！たいていの言語がそれらを無意識に、無秩序に使っている。その力を全面的に、そして規則正しく運用すれば、小さな語根から豊かな大辞書が開花することだろう。単に -ino、-ujo、-isto、-ema、-iĝi、igi をつけるだけで語数を100倍に増やせるのだ。1万もの単語が、ひとつひとつ覚えなくても、自然に創り出されるのだ。

学校の先生たちは、ルドビコ・ザメンホフを言葉の天才と思っていた。幼い頃から彼はもうフランス語やドイツ語を学んでいた。中学5年生の時には英語を勉強し始めた。英語は、発音が難しく、つづりはきちんと決まってい

ないが、行文にはなんと力強さやスピードがあることだろう！文法はどうだろうか？とてもやさしい。ほんのちょっと不規則な古めかしさが残っているだけだ。豊かな言語には、結局、難しい格変化や動詞の活用や文章構成法は要らないのだ。常に同じ形の語尾がいくつかあれば、動詞の時制を充分に表すことができる。o、a、e、のような付加文字を使えば、動詞から名詞や形容詞を、また他の品詞から副詞を作ることができるだろう。

しかし、この頃ザメンホフは言語学以外の仕事にも心を奪われていた。彼の母は信仰心の篤い人であった。一方、父は無神論者であった。ザメンホフ自身は子供の頃に既に信仰心を失っていた。彼の論理からすれば、牧師の教えを信ずる気にはなれなかったのである。人間は、何のために働くのだろうか？何のため

に生きているのだろうか？ 人間は何だろうか？
何故すぐ死んでしまわないのだろうか？ 何もかも空しく、疎ましかった。この頃は、彼にとって非常に苦しい時期だった。この頃の写真を見ると、少しすさんだ、厳しい顔付きをしていて、中学生ザメンホフの悲しみが見られる。

ザメンホフはこの精神的危機を乗り越えた。次第に本来の自分自身を取り戻した。彼は、自然の中には何らかの意義があるのを悟った。人間の生きがいへと導く、一層はっきりとした、気高い叫び声を身内に感じた。生と死に関する独自の信念を身に付けた。17歳で教典には見つけられなかった新たな信念と心の幸せをつかんだ。心が強く奮い立つのを感じた。

再び以前より熱心に著作活動に励みだした。後の写真を見ると、まなざしが変わっているのがわかる。とても穏やかな顔付きをしている。

1878年には、ザメンホフは中学の最上級生であった。その頃彼の言語案は固まっていたが、現在のエスペラントとはまだ多少違っていた。何人かの仲間たちが彼の労作に興味

を持った。ザメンホフは喜んで彼らにその新しい言葉を教えた。そんなに簡単でやさしいものとは誰も予想していなかった。7、8人が熱心にその言語体系を習得した。

ノボリピエ通りにある両親の家の一階に、ルドビコは自分の部屋を持っていた。仲間たちがリーダーの彼を慕ってその部屋に集まった。人間は兄弟に戻らなければいけないとみんな熱心に語り合った。理想は高く、任務は重大であった。12月5日に彼らはその新しい言葉の誕生を祝った。母が愛情を込めて作ってくれたケーキをかこんで、ルドビコと熱心な仲間たちが座っていた。彼の「世界語」が初めて話されたのである。希望に満ちた言葉を交わした後で、彼らは友愛の賛歌を歌った。

民族間の憎しみよ

滅びよ、滅びよ、

時は来たれり！

人みなこぞりて

ひとつとならん。

(次号へ)

JOJAGEME

En Revatan
Hispanion!

HASEGAŬA-JOŠIFUMI

La 19an de aŭgusto, 1975
Matene mi ellitiĝis ĉe la
hotelo "Modern" en Poitiers,
Francio. Post aĉetado de Coca
Cola (botelo da unu litro,
tiam tia ne estis vendata
en Japanio) ĉe la magazeno
"Printemps", mi veturis al
Irun per internacia ekspreso.

Kiam pli kaj pli proksimiĝas
la landlimo inter Francio
kaj Hispanio, la ĉielo fariĝis
blua, kaj la domoj fariĝis
malbonaj kompare kun tiuj
en Norda Francio. La muroj
de la domoj bele blankaj.
kampoj de maizo estas abundaj.

Survoje, hispanaj geedzoj
iom maljunaj envagoniĝis.
Ili parolas kompreneble hispanan
lingvon kaj tute ne povas
paroli anglan. Tamen, ni povis
interparoli, ĉar hispana lingvo
kaj Esperanto estas iom simila.
Ili parolis pri japana inĝeni-
ero de trajno, kaj pri fotilo.
Ili demandis al mi la prezon



Somera strando de St. Sebastian.
Sur la marborda strato viciĝas "Bar".
(foto:Hasegaŭa)



de fotilo, kaj ili surpriziĝis pro la alta prezo. Ili elvagiĝis ĉe iu stacio en Francio.

Mi matenmanĝis en la vagono per pano, persiko kaj la kolao. Je 3:30 p.m., mia trajno atingis Irun en Hispanio. Jam veturantoj malmultiĝis. Tie mi plifruigis mian horloĝon je unu horo. Tio estas la somera horsistemo de Hispanio.

Oni montris la pasporton al la kontrolisto kaj li kontrolis la valizon de veturantoj sed li strange ne kontrolis la mian.

En la stacio mi ŝanĝis monon. Mi estas tre ĝoja, ĉar mi jam troviĝas en revata Hispanio. Laŭ mi, tre moderna lando ne interesas min dum vojaĝado.

Nu, mi atingis St. Sebastian. Ĉe la informejo mi demandis pri konvena pensiono. Li montris al mi paperon, sur kiu

li skribas la nomon de la pensiono. Bedaŭrinde tiu pensiono estas jam plena. La mastrino de la pensiono telefonis al alia konata pensiono. Ŝi donis al mi paperon gvidan por atingi tiun alian pensionon.

La pago por tranokto en la pensiono estas pli malmultekosta ol de mi antaŭsupozita prezo. La prezo estas 400 pesetoj (2000 enoj). Unu japana junulo tranoktis en la suba etaĝo. Li jam venis unu tagon pli frue ol mi.

Post atingo al la pensiono, mi intencis duŝi min, sed la mastrino diris al mi "ne" en hispana lingvo. Mi tute ne povis kompreni la kialon, sed poste mi komprenis, ke en la urbo St. Sebastian, oni ne povas ricevi akvon post la 6a horo vespere. Tial

mi ne povis uzi bone eĉ necesojn vespere. Mi duŝos morgaŭ matene.

Nokte mi kaj la japana junulo iris eksteren por vespermanĝi, eble ĉe "Bar". Bar estas pli populara ol restoracio. Ni manĝis ĉe iu Bar. Poste ni

promenis sur la strato, kie multaj Bar viciĝas apud la maro. En Bar diversaj manĝaĵoj el marrikoltaĵoj troviĝas kaj sur la strato multaj homoj promenis.

ŝovinismo

Yonemi Maeda

S-ro Otani, nia bona klubano, nun laboras en tradukado de "Vivo de Zamenhof" de Privat, kaj mi iomete helpe laboras kun li. Dum tiu laborado, mi rimarkis, ke iu vorto en la verkaĵo estas tre malfacile tradukebla, kaj poste ke japanoj preskaŭ ne uzas tiun internacie signifoplenan vorton.

Temas pri la vorto "ŝovinismo", sufiĉe uzinda, eĉ uzenda, en nia lando, kiu lastatempe multe aktivis en internacia medio.

Mi preskaŭ ne legas tiun vorton sur nuntempa gazetaro, kiam oni diskutas pri aĉaj eldiroj de japanaj respondecaj parlamentanoj, kiam oni temas pri ekonomia kolizio aŭ pri kultura ŝoko. Bonvolu explore serĉi tiun vorton en ĉiutagaj ĵurnaloj.

Kredeble en japana lingvo ne troviĝas simpla, konciza kaj taŭga tradukvorto por tiu.

Mi cerbumas, antaŭ la lasta milito en nia lando, se oni uzus tiun vorton kun plena kompreno kaj konciza traduko, tiama fanatika imperiismo kaj senbrida patriotismo kaj ties trudemo estus malpliigata.

Mi cerbumas, ke tiu vorto denove validas ankaŭ en nuntempa Japanio, kiu ofte fuŝas en sia internacia konduto fiera pri sia ekonomia influ-povo kaj teknika kapablo, kaj eĉ estas preta en pli da armado.

PIV. klarigas tiun vorton kiel jene:

"Fanatika troa patriotismo, konfuzanta amon al patrolando kun malamo kaj atakemo al aliaj landoj."

[参考]

岡本旧新撰エス和：似非（ユヤ）愛国主義。

新撰エス和改訂新版：偏向愛国心。

小辞典：<政>ショビニズム、排外的愛国論・心。

クラウン仏和：chauvinisme 盲目的愛国心、狂信的排外主義。

大学書林新独和：Chauvinismus 偏狭過激な愛国主義。

研究社新英和中辞典：chauvinism [ナポレオンを崇拜した兵士の名に-ism (主義)をつけたもの]

1. 狂信的愛国主義。

2. (自己の属する団体・性別などに対する)極端な排他〔優越〕主義。

自由国民社・現代用語の基礎知識1986：ショ-ビニズム (chauvinism) ナポレオン一世とその偉業をほめたたえた軍人のショ-バン (Chauvin)の名から出たもので、軍人英雄の謳歌である。このため男性ショ-ビニズムとしても用いられ、女性を軽視する意味合いをも含んでいる。このため、婦人解放のウ-マン・リブがその反対の言葉として用いられる。

アメリカ・フランス
ドイツ・ホンコン
ポーランド
から……

和歌山は近畿のよ道じゃない!



Polaj Gesinjoroj Szczygiel tranoktis ĉe S-ro Fukumoto fine de aŭgusto.

De maldekstre: filino de S-ro Fukumoto, ŝia amikino, S-ino Zofia, edzo Ryszard kaj S-ino Fukumoto.
(foto; Fukumoto)



Ĉe S-ino Yositomi, 7-aŭgusto, Doroteo tre ĝojas pro ĉarma donaco de japana esperantistineto.

(foto: Tuji)



En Kioto, 14-aŭgusto. Maeda ĉiĉerone gvidis usonan postkonresan grupeton, danke al ilia afablo en 1984 kaj poste ili danke okazigis kunsideton "honore" al li ĉe iu restoracio en Kioto. (foto: John Mathews)



La 15an de aŭgusto, en Honkong. Nia aŭtobuso surgrimpis ĝis la supro de la monteto Viktoria-peak, de kie oni ĝuas ampleksan kaj belan panoramon super la urbo. Bedaŭrinde nebula estis la aero, tiel ke ne sufiĉe klara estis la pejzaĝo por fotado. Nian grupon mi tamen surbildigis ĉesupre de la monteto. Mankas Thomas, kiu tute sendepende vagadas.

(foto kaj komento: Léo Robert)

★ S-10 过早 獎勵を受つた。 Gratumon。

ザメンホフ祭です！

一年一度の〈勉強〉しない例会です
皆さん ぜひぜひご参加下さい！
一年一回出席の方も 大歓迎！

日時 12月6日(土) (晴・雨・大雪にかかわらずあります)
午後2時～4時迄
場所 県庁前バス停下車 県庁北側の道を西へ300米
当日会費 1000円(お菓子とお飲物用意します)
司会進行 S-ro 福本博次

★当日会費1000円と、1987年緑丘会々費3000円
(学生・家族は1000円)は、会場入口でお渡し下さい。
→牛島美恵子さん迄

★その他 87年KLEG会費 3200円と
// JEI 会費 4800円は
入会並びに継続希望の方のみ、会計係牛島さんにお支払い
下さい。

◎図書売り場を設けます。担当 S-ro大谷宏治
本を手にとって、自分に適当なものを選ぶよい機会！
この機会をのがしては、手に入りにくい本も?..あるかも?

★ S-ro 福本博次の「子供向けの絵入り」エスペラント練習シートは 今回 おやすみです。

1986年11月

(へんしゅう) 前田米美
(わーぷろ) 福本博次
(たいとるばう) 辻千早
(おこつだい) 松下真代

T640 和歌山市川松原6丁目1-6

TEL 0734-22-8660

VERDA MONTETO

Redaktita ĉe MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 39

も
く
じ

ザメンホフ伝 (9) --- 大谷宏治 --- 1	お便り ありがとうございます"はした" ---
VOJAGEME -----	--- S-ro Qin 他の方々 ----- 6
----- HASEGAŬA-JOSIFUMI --- 2	
文通のおお初 --- 前田米美 --- 4	Elegio pri infana kongreseto ---
今年のいろんな大会 --- 5	--- Andreas Kleemann --- 7
和歌山緑丘会のザメンホフ祭 --- 5	会計報告 緑丘会会員名簿、他 ---
	----- 8

ザメンホフ伝 (9)

原作： エドモンド・プリヴァ
 翻訳： 大谷 宏 治
 タイトルバック：辻 千 早

"VIVO DE ZAMENHOF" Edmond Privat
 La kopirajto de la originalo, la
 Esperanta eldono, apartenas al:
 THE ESPERANTO PUBLISHING CO. LTD.
 9 Maycock Place, ORELIA(WA) 6167,
 AUSTRALIO.



1979年6月に中学の課程が終り、仲間たちは、ばらばらに別れていった。彼らがいちばん慕っていたザメンホフの人柄は、とても大きな影響を彼らに残していたので、彼らはザメンホフの思想を宣伝し、新しい言葉の説明をし始めるほどであった。しかしザメンホフは 後年どんなに 寂しく思ったことだろう。「大人たちに からかわれた仲間たちは、すぐに その言葉をやめてしまい、残ったのは 私ただ一人だった」と彼は迷懐している。全人類の歴史を通じて、偉大な先覚者は たいてい そういう

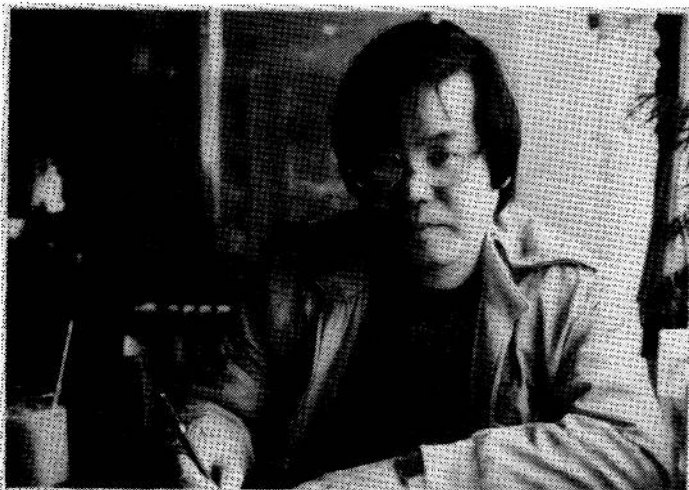
目に遭っているのである。家でもまた むごい仕打ちを受けねばならなかった。その時まで父親は表立ってルドビコ少年の「仕事」に反対はしなかった。それはルドビコが どの試験でも素晴らしい成績をあげていたからである。しかし 中学を卒業し、職業を選ぶ時が来ると、雲行きが怪しくなってきた。

マルクス・ザメンホフの知人や同僚は それまでにも何回となく ルドビコのこと 忠告していた。「若い者が そんな固定観念を持っていたら 精神異常者になってしまうかもしれ

ないぞ。そんな幻想の世界で優秀な子の才能を浪費させておくのは もったいないことだ。そんなことを続けていたら、病気になってしまうぞ！」 彼らは そんなふうに 善意で言ってくれたのである。

父はもっぱら 息子の将来を心配していたのである。不真面目な男、単なる「夢想家」などと 皆に思いこまれていたとしたら、これから

息子は どうやって生きていくつもりなのだろう？ その当時 ロシア帝国に住むユダヤ人に許されていた数少ない職業のひとつが 医者であった。夢たわごとでなく、実利的な研究が、何よりも優先されるべきだった。そういうわけで、とりあえず、ルドビコは世界語のことを、しばらくの間は諦めるという 約束までさせられてしまったのである。この「お供え」は、



ザンボワ伝の翻訳に熱情をそそぐ 大谷寛治さん。録で英語を教え、最近 英語からの翻訳「ダブルアゲンテス 偉大母親」を出版されました。

つらい、苦しいことであった。

そこには いけにえを供える祭壇があった。机の上には ノートと辞書、文法書、詩作、そして新しい言葉による翻訳が置いてあった。長い年月をかけ、思いをめぐらし、模索し続けた成果の、貴重な原稿であった。何もかも 諦めなければいけないのだろうか？ 父はそれを強要した。ひとつ残らず父の戸棚にしまいこまれた。太いひもでくくられていた。扉は、閉ざされてしまったのである。

(次号へ)

VOJAĜEME

En Hispanio,
senrezervanto
nerajtas veturi
per ekspreso,
eĉ kun "EURAIL-
PASS"

HASEGAŬA-JOŜIFUMI

La 20an de Aŭgusto, 1975

Matene mi duŝis min ĉe la
pensiono de S-ino Carmen. Ko-

mence varma akvo bone eliĝas
sed baldaŭ eliĝis malvarma akvo
el la duŝilo. Ĉi tie estas ne
en Japanio!

Mi iris al stacidomo St. Sebas-
tian kaj survoje al ĝi mi aĉetis
panon kaj jogurton ĉe butiko.
Ĉe la stacio mi manĝis nur jo-
gurton por matenmanĝo.

Mi ekveturis per ekspreso al
la urbo Zaragoza sed ĉiuj seĝoj
de la vagonaro estas rezervitaj.
La konduktoro anoncis al mi ke
neniu rajtas veturi sen rezervo.
Lian hispanlingvon mi baldaŭ
komprenis, ĉar tion mi anticipe



sciis per vojaĝlibro kaj lia hispanlingvo tre similas al Esperanto. Ankaŭ iu japana studentino en sama vagono ne havis rezervon. Ni devis elvagoniĝi ĉe la stacio Pamplona.

Pamplona estas malgranda stacio kaj ni devis atendi tie du horojn. Ni tagmanĝis tie, aĉetinte fruktojn kaj trinkaĵojn. La suno forte brilis. Ni parolis kaj manĝis apude de iu domo. Ŝi lernas anglan lingvon en Britio kaj vojaĝas dum la somera libertempo. Ŝi jam vizitis Svedion, Norveĝion, Francion kaj aliajn. Ŝi vojaĝis kun sia amikino ĝis antaŭhieraŭ, sed nun sola. Mi pensas ke vojaĝi virino sola estas danĝere. Ŝi ankaŭ parolis pri tio al mi.

Nu, ni atingis la urbon Zaragoza vespere. Ŝi intencas tranokti en junulara gastejo, dume mi intencas tranokti en malmultekosta pensiono. Unue mi mem serĉis pensionon, promesante sin trovi ankaŭ ŝian ĉambron,

dume mi petis ŝin gardi mian valizon. Mi vizitis kelkajn pensionojn, sed ĉiuj estis plenaj. Tial ni iris al junulara gastejo. Survoje forte ventis kaj pluvis. Demandante la lokon de ĝi, ni finfine trovis la gastejon. Ĝi apartenas al kolegio.

Hodiaŭ, iu germano kaj ni estas la unuaj vizitantoj al la gastejo. Baldaŭ mezaĝa gastejano aperis antaŭ ni. Ni pagis sume 90 pesetojn. Junulara gastejo estas malmultekosta. Ankaŭ ĉi tie varma akvo feliĉe eliĝis el la duŝilo.

Mi vespermanĝis en Bar. Mi telefonis al du delegitoj. Sed bedaŭrinde mi ne povis paroli kun ambaŭ. Ĉar pri unu el ili, la telefonnumero ŝanĝiĝis, kaj pri la alia, neniu respondis. Kaj mi iris al stacidomo por rezervi morgaŭan trajnon, sed la oficisto de la informejo diris al mi ke tio komencos morgaŭ matene, ek de la 8a horo.

交通のおすすめ

前田米美

いつか将来、外国旅行を考えておられるあなたへ、交通をおすすめします。

本誌連載の長谷川さんの旅行記のように、若い元気にまかせて、のんびり独り旅で、広範囲にヨーロッパを回遊するのも面白いですが、それでもあるまじに書いてエスペ란チストの助けが得られなかった時、とてつらそうでした。

こんな時、交通相手が駅などで待っていてくれたら、どんなにすばらしいことでしょう。

私が1985年の夏、ヨーロッパをエスペラント旅行している時、現地でのたのまれた交通希望のひとたちを、ご紹介します。ヨーロッパには、まだ見ぬ不思議な東洋の国 日本に、夢のようなあこがれをもっていて、交通したがっているひとが、かなりたくさんいます。

① S-ino Stefania Weške

91-473 Łódź,

ul. Yulianowska 9 m 115,

Pollando. ポーランド

(Mi volas korespondi kun 35 - 45 jaraĝulo, simila al mi, kun ĉu li aŭ ŝi.)

② S-ro Kołosowski Mieczysław

95-050 Konstantinów Łódzki,

ul Miodowa 7,

Pollando. ポーランド

(Mi estas 42 jara[1985]. Kun 20 - 50 jaraĝulo, ĉu li aŭ ŝi. Mia edzino estas ankaŭ esperantistino.)

* Łódzki estas proksime de Łódź.

I^o skribu Ī

③ F-ino Borsiak Elżbieta

93-225 Łódź,

ul. Zbaraska 23 m 12,

Pollando. ポーランド

(Mi estas 22jara. Kun 20 - 30 jara junulo, ĉu li aŭ ŝi)

④ S-ro Albert F. Stephan

Carmenstr. 5,

D-4000 Düsseldorf,

FR.Germanio. 西ドイツ

(Kun japanino)

⑤ S-ino Gisèle Gizard

36 av. St. Médard,

F-33320 Eysines,

Francio. フランス

(Ĉirkaŭurbo de Bordojo. Oficistino de Komunuma oficejo de Bordojoj.)



文通申込の例文として、絵葉書などに、こんなの如何
でしょう。

Wakayama, 15-Feb. 1987

Estimata Sinjor(in)o,

Mi trovis vian adreson en la E-
klubo de nia urbo. Mi deziras kores-
pondi kun vi. Ĉu vi konsentus kores-
pondi kun mi?

Mi estas ___ jara oficistino. Mi havas
edzon, du gefilojn, kaj laboras provi-
zore en iu magazeno. Mi ŝatas muzikon,
librolegadon kaj kuiradon.

Mi atendas vian respondon.

Sincere Via,

(subskribo)

申込の手紙 出された方、または出したい方、事前事
後どちらでもけっこうですから、一応 前田までご連絡
ください。

今年の いろんな大会

今年は、エスペラント誕生100周年で、大会も一
段とはなやかに計画されています。

*UEA (世界エスペラント協会) の第72会世界
大会は、ザメンホフの国ポーランドのワルシャワ
で、7月25日(金) - 8月1日(金)。

JEI (日本エスペラント学会) では、今年も
karavanoをいくつか計画していますが、まずUE
Aへの参加申込が先決です。

*SATは、第60回大会をブローニュ・スル・
メールで、8月22日(金) - 8月29日(金)
ブローニュ・スル・メールは、英仏海峡フランス
側の海岸にあって、第一回世界大会が1905
年に開かれた ゆかりの港町。

*日本大会は、百周年全国大会ということで、東京
で、8月24日(日)を含めた2 - 5日間の予定

*サンフランシスコ大学で毎年開かれるエスペラント
夏期講座は、入門からハイクラスまで4段階に
わかれて同大学キャンパス内で、6月29日(月)
から7月17日まで。エスペラントでエスペラント
を各国大学教授が教えます。学生寮に泊まって
各国の友達ができる、若者向きのエコノミー学習
旅行。

和歌山緑丘会のザメンホフ祭

昨年12月6日(土)のザメンホフ祭は、本誌12
月号裏表紙のお知らせが「会場名」を書き忘れていた
にもかかわらず、写真のように、15人プラス子ども
2人で、なごやかに、図書売上約42,000円。
過半数が女性となると、雰囲気もかなり変わって、こ
まやかな心遣いと、はなやかさで、男性方もけっこう
楽しませてもらいました。



お便りありがとうございました。

★

明けましてお自出度うございます。緑丘会のますますのご発展をお祈り申し上げます。1987年元旦北アイルランド・マイケル・ラム、富美子、ひょうご。

★

昨年中は林間学校などお世話になりました。又、土曜日はまったく行けなくて申し訳ないです。今年もよろしくご指導の程お願いいたします。

643-03 有田郡清水町粟生 南 幸夫

★

Antaŭ ĉio mi bondeziras al vi kaj miaj ĉiuj geamikoj en via urbo por Printempa Festo.

En la pasinta jaro mi mem opinias, ke mi klopodis por bone sukcesi en mia laboro. Sed oni ne sufiĉe konstatis pri tio. Mi ĉiam sopiras pri la mallongaj du monatoj, tiam mi streĉe laboris kaj studis en Wakayama-si. En la pasinta jaro mi laboris streĉe kiel en via lando, sed vane.

.....

Antaŭ du monatoj, mia edzino akceptis unu domon, kiu situas ĉe ŝia laborejo. Ŝia nova domo estas pli vasta ol la mia, sed multe lacigas min survoje per biciklo. En mia lando, malmulte da homoj havas sufiĉe da loĝejo kiel mia familio havas nuntempe. Ŝi deziras, ke ŝi invitos sian bofratinon al Pekino por helpi nin en hejmo-laboroj. Eble tiam mi havos pli longan liberan tempon kaj energion.

Qin Chaisue (Pekino)

★

いつもお世話になりながら手紙も出さず失礼致しております。ヒマを見つけてはエスペラントの方も勉強しなくては、...と思っているのですが、なかなかうまくいきません。御迷惑ばかりおかけしますが、本年も宜しくお願ひ申し上げます。

御坊市 山本泰樹

★

Nun necesas peresperantaj laboroj en alte kriteria nivelo por la jubilea jaro. Subtenon al la Japana Antologio!

高槻市 竹内義一

★

毎月VERDA MONTETO をお送りいただき ありがとうございます。... 学部(和医大)に上って講義、実習で追いまわられてますが、エスペラントの医学雑誌を読みたいという思いも健在です。

(住所変わりました)

〒640 和歌山市 市小路391-2 新井ハイツ 202号
TEL 0734-53-8406 三谷 晃



Elegio pri infana kongreseto

Andreas Kleemann

Esperanto, la lingvo de Zamenhof,
mi eklernis en la junaj jaroj
eĉ en la loĝejo de la bov'
je la ĝojo de miaj gepatroj.

Mi vizitis jam plurajn infankongresetojn
en Islando, Svislando, Svedujo
kaj renkontis multajn alilandajn geamikojn
ankaŭ en Belgio, Hungario kaj Japanujo.

Je la sepa frumatene
kongresaj patrinoj vane vokis nin.
Je la naŭa fruvespere
karaj helpantoj pene silentigis nin.

Jen programeroj de la kongreset'
mallongaj, ofte amuzaj
oni ne ŝanĝis malgraŭ nia pet'
ĉar la helpantoj estis ruzaj.

Marŝado dum ekskursoj tre lacigis.
Nur kiam ni manĝis dolĉan glaciaĵon
Eĉ longa vojo ne ŝvitigis
Kaj tiu surprizo hellogis etulan vizaĝon.

Skribi taglibron neniam al ni plaĉis,
Kvankam ĝi donas poste belan memoron.
Ĉiu matene aŭ vespere ni ĉiam sidaĉis.
Fine eĉ la plej malgranda infano ricevis honoron.

La popoldancojn organizitajn de Maria,
Bedaŭrinde knabinoj plezure faris.
Ni, knaboj intence provis eviti, "Oh mama mia",
La observantoj gajajn ridetojn ne ŝparis.

Mi ne volonte finas la rakonton,
Ĉar kongresetoj estis miaj verdaj domoj.
Ni enradikigu unu valoran moton:
"ESPERANTO", la lingvo de ni, Homoj!

エスペラントの詩をひとつご紹介。

詩は 文化の所産。 といつても、
詩は そんなにむづかしいものでないことを、
わかっていただこうと思つてのご紹介。

この詩は ドイツの13才の子どもが作った。
名前は、アンドレアス・クレマン、あの、
よしえさんの次男で、目の大きい可愛い子です。
Monatoにも 載せてもらいました。

ちょっと わかりにくいところもありますが、
それは、ドイツの しかも子どもの言葉だから。
ドイツの子どもの変わった生き方
自由に想像しながら、読んでください。

エレジーなどと、いかかっています。
一生懸命 脚韻をふませようとして、
少しよろけながらも、ちやめつけて、
いたいことを、ズバリと書いています。

ジラブルの数をそろえるなんて、
知ったかぶりの、頑固な大人のやること、
でも、最後に ちょっと
エスペラントに おべっかを言っているのです。



会計報告 1986年度(昭.61)

収入の部 S. 60. 11. 16 -
S. 61. 11. 30

項目	金額	摘要
前年度繰越	848	
会費	76000	22名
お茶祭 図書運元	5300	
緑星章売上代	900	奥村先生よりの寄付
JEI, KLEG会費 団体割引	7480	
寄付金	45000	
	135528	

支出の部

項目	金額	摘要
通信費	31710	切手、封筒、送料 他
事務用品費	60760	カク印刷、封筒 他
交際費	6850	会館事務所管理人心付け
会議費	8370	お茶祭茶菓子代
	107690	

収入の部 135528 円
支出の部 107690 円

次年度繰越 27838 円

以上の通り 報告致します。
昭和61年12月6日

会計係 牛島 美恵子

緑丘会会員名簿 (略敬称)

[緑丘会+JEI+KLEG]

牛島美恵子 江川治邦 大谷宏治 酒井利子
田中正美 辻 千早 福本博次 前田米美
松下享代 宮本勝正

[緑丘会+JEI]

高橋千恵子 長谷川好史

[緑丘会]

上中華子 亀井幸枝 高岡直子 谷上 屹
西原未佳子 舟尾公男 山野晴美 吉富相子
(計 20名 1月18日現在)

例会の開始

土曜例会: 1月17日(土)より毎週土曜日
午後2時-4時 県職員会館

木曜婦人会: 1月22日(木)から毎週木曜日
午前10時-12時。
22日は高岡さん宅で。

水曜翻訳研究会: 1月21日(水)から毎週水曜日
紀の国会館コーヒラウンジ

ではじめてます。おいでませ

* S-ro MAEDA は、ごく気軽な口調で、編集
後記を書け、などとおぼろ。ナヤむじないですか。
心なすも(?)どの例会にも、こぼしたしている私に、いっ
せんたい。Kion mi povas skribi? ん? povas なんて言
え、いんじやないでしようか。eblas か。もし、たらう……
rajtas では……と、しさんで、いる所へ。Ankahi alia
bird bekis min. 実はおちの娘。最近 エスプレッソで
どういうの?“を連発するのです。“ふり、こする、て。
どういうの?“ぶつんする、てどういうの?““ちくり”の
ことは、何ていうの?“と、まうるさいの、ナ。どなたか
Gvidantoj, Antaŭuloj, helpu min! (Pino)

1987年2月

(ハルハ) 前田米美

(フ-700) 福本博次

(タ11) 辻 千早

(おてつだい) 松下享代

T640 和歌山市小松原6丁目1-6

TEL (0734) 22-8660

VERDA MONTETO

Redaktita de MAEDA-Yonemi (dumonata) N-ro 40

も
く
じ

ザメンホフ伝(10).....	
.....大谷宏治.....	1
Inĝanaj Tagoj.....	
.....Tanaka Masami.....	3
スペインの命名改名事情.....	4
お便りありがとうございました.....	
.....桜谷正雄さん	

大橋和歌子さん	
Toth Janosさん.....	6
VOJAGEME.....	
.....HASEGAŬA-JOSIFUMI.....	8
[会費について][便益について].....	
*テレホンサービス.....	
*第35回関西エスペラント大会.....	10

ザメンホフ伝 (10)



原作：
エドモンド・プリヴァ
翻訳：大谷 宏治
タイトルバック：
辻 千 早

"VIVO DE ZAMENHOF" Edmond Privat
La kopirajto de la originalo, la
Esperanta eldono, apartenas al:
THE ESPERANTO PUBLISHING CO. LTD.

第4章 学生時代

母親と長い別れのキスを交わし、ルドビコはモスクワに旅立った。大都会。学生である大学。まばゆく光るクレムリン宮殿の塔。通りは白い雪で覆われている。そりがリンリンと鈴の音を鳴らして走る。長い毛の馬があ

ただしく道を行く。どこを見ても明るく、活気に満ちていた。

若者はつつましい生活をしていた。家庭教師をしてわずかなお金を稼いでいた。しかし教師の職を見付けるのでさえも、ユダヤ人の若者にとっては大変なことであった。“Moskovskie Viedomosti”という雑誌にもちょっとした記事を寄稿していた。故郷では両親が心配していたが、ルドビコは、「1カ月の支出はたった19ルーブルでいいのです」と手紙に書いて、両親を安心させようと

した。しかしどんなふうにして食事をとっていたのだろうか？

ルドビコはまじめに医学の勉強を続けた。自分の順番がくれば、解剖室の死体の上に身を屈めて解剖にとりくんだ。暖かい心で、人体の内部組織を取り出していった。そこでも彼は相変わらず想い続けていた。人間はみな同じではないのか？ 同じ器官を持っているし、生きている間は、同じ欲求や恐れや願望を抱いているではないか？ 言葉や皮膚の色の違いがそれを変えてしまうのだろうか？ 民族間の無知は、無くさなくてはいけない。

しかしルドビコは父との約束を守った。「人類のことを考えるのは、何年か後にしなさい」という父の論ず声が聞えた。けれど心にぽっかりあいた空洞は大きく、苦しみ悩んだ。理想という目当てが無くて、どうやって生きていけというのだ？ 彼の思いやり深い心はその糧を求めた。ルドビコはユダヤ人たちの苦しみに目を向けた。ある新聞の記事に目をとめた。シオニスト（ユダヤ人の建国主義者）の目覚めに興味を抱いた。ユダヤ民族も、他民族と同じように、認められ、尊重されていいはずだ。なのになぜユダヤ人だけが、自分たちの国籍を隠したり、恥じたりしなければいけないのだろうか？ ユダヤ人たちはまた、自分たちの文化の拠点を持ってもいいはずだ。モーゼの子孫たちは世界中に散らばってしまっている。古代ギリシャの青いエーゲ海のかなたに、古代パレスチナがある。運動や集会や不屈の意志力がいつかは奇跡をもたらすだろう。たぶんいつの日か、その約束の地にユダヤ人たちの家が建つだろう。学校や集会場が開設されるだろう。移民たちがその周りに住みつくだろう。その計画は正義をもって押し進められるべきで

あった。離れ離れに住んでいる人々が希望を取り戻せるのだ！ ザメンホフは少年の頃に既にロシア語で詩を書いている。ユダヤ人に捧げる詩を今度は“Ruski Fevrej”に載せたのである。

自由の祭壇へ、

兄弟たちよ、

さあ急げ！

自分の家を立てるために、

みな煉瓦を運ぼう。

多くの人たちが

風や波や無知に押し戻されたとしても、
おまえがまいた種、

おまえが果たした苦勞は、

この地上で滅びることは決してあるまい。

目覚めよ、虐げられてきた人々よ！

こんな時に眠っているのは

恥ずかしいことだ。

波打つ民衆の力で

命の旗を打ち振るおう！

富める者たちが金のため

権力に媚びようと、

我々、貧しき者たちは、汗のコインで

このかせを打ち砕こう。

自由の祭壇へ、

兄弟たちよ、

さあ急げ！・・・

若者は雄弁をふるって呼びかけた。しかし、ザメンホフはシオニストの中では指導者になったことはなかった。ユダヤ人の功績をいろいろと過大評価することが彼を悩ませた。「どの民族にも優る聖なる民族」という言葉が絶えず人の口の端にのぼるが、それはまるで他民族をさげすんでいるようで、彼の心を傷つけた。

彼は、ポーランド人やロシア人やルーマニア人に向って辛辣な言葉で罵るのがいやだった。抑圧する政府に不満をぶつけるのはいいけれど、他国民への憎しみにすりかえるべきではないと思った。同民族の間ですら、非常に了見の狭いショビニスト（排他主義者）的なちよつとした言葉が彼を後ずさりさせたのである。

ユダヤ人たちは他民族にもっと近づいて、彼らのことをよく知る必要が大いにあった。また彼らは国際語の必要に迫られていた。人々は、群衆と、その中に隠れ潜んだ煽動者との違

いを悟らなければいけない。他民族の歴史を知らなければいけない。他民族の人たちもまた、みな大変苦しんできたし、権力者たちに抑圧され、少数の世渡り上手な人たちに利用されてきたのである。ユダヤ人は自分たちの戒律や民族や習慣を大切にしなければいけないが、それらすべてを越えて、人類を愛し、兄弟として人類の役に立たなければいけない。物思いにふけりがちな学生ルドビコは、そのように感じ、再び、自分の空想の世界に戻っていった。

〔=文号へ〕

Infanaj Tagoj

Tanaka Masami

Mia nova loĝejo estis unu el la domaro por la laboristoj de la karb-minejo. De tie vidiĝis perspektive multaj nigraj montetoj de la karbo-ruboj, unuj estas altaj, aliaj mez-altaj, kaj grandaj konstruaĵoj, kiuj apartenis al la karb-minejo. Iliaj altaj fumtuboj sputis senĉese nigran fumon, kiu kovris tutan ĉielon preskaŭ ĉiutage. Post longe mi eksciis, ke ĉi tie estis granda karbindustria zono tiel nomata "Ĉikuhoo", kaj mia patro estis tiea laboristo.

Post la malapero de la patrino, mi devis vivadi nur kun la patro. Dum la tago mi restis sola kaj atendis aperon de la patrino, kiu forlasis min

etan, ankoraŭ kvin jaraĝan.

Pasis tempoj, tagoj post tagoj, monatoj eĉ jaroj sed la patrino ne aperigis sin antaŭ ni.

Frumatene la patro iris al la laboro, kaj mi restis en la domaĉo. Mi ne havis amikon, kun kiu mi volus ludi aŭ paroli. Pro tio mia karaktero fariĝis obstina, timema kaj hom-evitema. Se iu vizitis mian loĝejon, mi tuj kaŝis min en la angulo de la ĉambro kaj atendis lian foriron.



Baldaŭ mi fariĝis sepjara. La onklino, kiu loĝis proksime de nia loĝejo, ĉiam zorgis pri mi. En iu tago de aprilo ŝi akompanis min al la elementa popol-lernejo por enirigi min.

Kiel la unua-klasa lernanto mi komencis vizitadi la lernejon. Iufoje en la klas-ĉambro okazis afero, pri kio mi ne povis forgesi.

La instruistino skribis ciferojn sur la nigra-tabulo.

1 2 3 4 5 10

Skribitajn ciferojn tiam mi pretervidis sed mi estis pensanta pri io alia kiam ŝi vokis mian nomon kaj ŝi montris "1" per la instruista vergo kaj diris "kalkulu" (tiel mi aŭdis)

"unu" tuj mi respondis heziteme.

"Jen", ŝi montris '2'.

"Tri", mi respondis.

"Jen", ŝi montris '3'.

"Ses", respondis mi fiere.

"Ĉesu", ŝi kriis kun iom malafabla tono.

Alia lernanto nomita de la instruistino lautvoĉe legis,

"Unu, du, tri, kvar, ...".

"Bone, tre bone", diris la instruistino.

"La problemo estas tre simpla, neniu povus ne respondi tian facilan demandon"

"Mi absolute ne eraris" mi murmuris en la koro kaj dum longa tempo mi firme kredis tiel. Mi klare aŭdis. Ŝi diris al mi: "kalkulu".

En iu aŭtuna tago, post-tagmeze fininte la lecionon, mi revenis al mia domaĉo, tiam mi aŭdis inter-paroladon en la ĉambro. Vira voĉo estis de

mia patro kaj alia estis de virino tute nekonata por mi. La voĉo de virino estis vigla kaj juna. La patro estis ĝojplena. Tra la fenestro mi ŝtele enrigardis en la ĉambro. Tie sidis juna virino en kimono. Ŝiaj lipoj estis ruĝe ŝminkitaj per ruĝo.

Ekrimarkinte mian venon la patro vokis min eniri kaj diris:

"Tiu ĉi virino estas via patrino" Ŝi estis svelta, altstatura kun bela trajto. Kun rideto ŝi karesis mian kapon kaj brakumis min al sia brusto. Dolĉa miela bonodoro tiel pikis mian nazon. kvazaŭ sopirita patrineca varmeĉo kovris mian korpon.

Mi estis tiel ĝoja kaj kontenta, ke mi elsaltis el la ĉambro eksteren sur la straton kaj kriis:

"Al mi venis nova patrino.

Ŝi estas ega belulino!"

KORESPONDEME

スペインの

命名改名事情

エドアルド・カスチーヨ・ルイズさんから
松下 享代さんへの てがみ。 前田要約

Montril, la 21an Jan. 1987

Kara amikino:

Certe kaj volonte mi permesas al vi uzi mian nomon kaj familian nomon kaj ĉion kion vi volus aperigi en via revuo.

エドアルドさん (Eduardo CASTILLO RUIZ; カナ書きスペイン語の発音、これでいいのかわかりませんが) は、42才。

奥さんの名前は Toni AGUILAR GONZALEZ.

子どもが4人います。長男の名は、やはりお父さんと

同じ Eduardo. ヨーロッパでは、息子さんがお父さんの名前を呼びつけにしているのを聞いたことがありましたが、彼らはおたがいに、どんなに呼びあっているのでしょうか。

Mia edzino volas lerni Esperanton sed ne havas la tempon. Eble mi baldaŭ komencos instrui al mia granda filo Eduardito (9jara. -ito=-eto) la lingvon internacian, sed ĝenerale ni estas ĉiuj tre nervemaj kaj ne havas la tempon, nek la kvietecon por tio.

Viaj fotoj tre plaĉis al mi. Ankaŭ via skribmaniero estas tre bela kaj klara. Certe la papero, kiun vi uzas, estas tre originala kaj bela, same la poŝmarkoj. Kaj miaj kolegoj envias min.

さて、私達のいわゆる 苗字、姓、即ち 家族名 (familia nomo)も、本名 (Propra nomo, antaŭnomo baptonomo)も、スペインでは Eduardo のように、中世イギリスなどの、キリスト教聖人の名からとることが多いそうです。役所に届けて oficialaj dokumentoj に名前が登録される時、baptonomo か familia nomo

か、間違うことがあるので、2つある familiaj nomoj の間に "y" (kaj) をはさみます。エドアルドさんの正式の記名は、Eduardo CASTILLO y RUIZ ということとなります。

2つというのは、父方の姓と母方の姓をもらうのです。彼の場合、CASTILLO は父の姓、RUIZ は母の姓です。そして、彼の gefratoj は

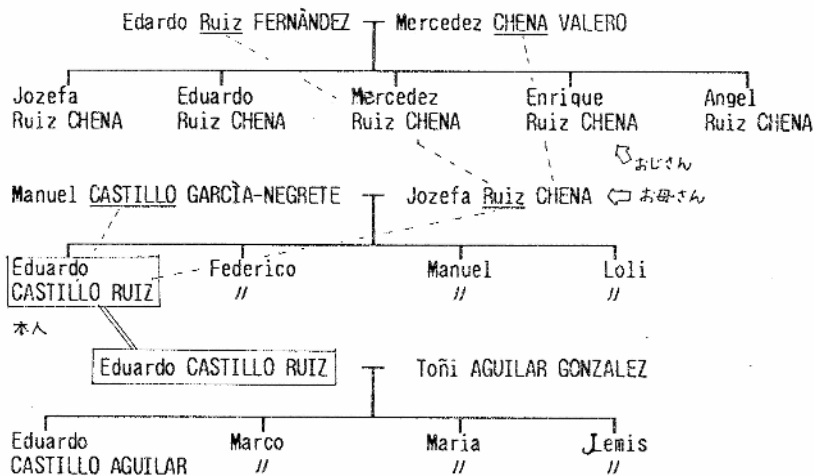
Federico CASTILLO RUIZ
Manuel CASTILLO RUIZ
Loli CASTILLO RUIZ

と名のっています。

彼の子どもたちの姓には、彼の奥さんの姓がはいります。奥さんの名は Toñi AGUILAR GONZALEZ で、その AGUILAR をとって、

Eduardo CASTILLO AGUILAR
Marco CASTILLO AGUILAR
Maria CASTILLO AGUILAR
Jemis CASTILLO AGUILAR となります。

ここで、彼の4代にわたる家計図をご紹介しますと：



この図を見ながら、彼が「改姓」というよりも、「加姓」しようとして、あきらめたいきさつを、以下読んでみてください。

Estas eble ke, se oni volas konservi la duan familian nomon, oni povas peti de oficialaj aŭtoritatoj la aldonon de streketo kunigante du familiajn nomojn, sed tio estas tre multekosta, ĉar oni devas ŝanĝi multajn dokumentojn. Ekzemple, se mi tre ŝatus mian duan familian nomon "Ruiz" kaj volus ke miaj gefiloj konservu (eble se mia patrino estus tre fama verkistino, artistino, k.a.) ili povus nomi sin:

Eduardo Castillo-Ruiz Aguilar
Marco // //
Maria // //
Jemis // //

Mi havas onklon, Enrique, frato de mia patrino kiu nomiĝas Enrique RUIZ CHENA. La familia nomo CHENA estas malofta kaj sonas tre bele por la hispana "orelo" kaj mia onklo iam pripensis pri la ŝanĝo de la familiaj nomon de siaj gefiloj sed poste li rezignis tion, ĉar estas implika kaj tre multekosta.

Se li estus ŝanĝinta la familian nomon, ĝi rezultus:

sia edzino estas Lola MARTÍNEZ VINUESA
kaj li mem Enrique RUIZ CHENA
Tiel miaj 8 gekuzoj estus....
Eduardo RUIZ-CHENA MARTÍNEZ
Mari // //
Alberto // //
Enrique // // kaj tiel plu...

お便りありがとうございました。

こんないたずら書きの出来るのもアト暫(しばらく)くでしょう。

★ 伊都郡 桜谷正雄さんより

(眼が駄目になりましたので、残りは後刻書き添えます。)

(1) ちょうど80歳。体だけは頑丈です。但し眼は駄目。近視、乱視、その上老眼が加わり、長時間の読書には耐えられません。たまに鎌(すき)、唐鎌、鎌、各一丁を持って島に行くこともあります。モノを作るためではありません。畑の畦で同じ位の老人と話し合うためと言った方がよいでしょう。

(2) エスペラントも殆ど完全に忘却、読むことも、話すことも、聞くことも全く出来なくなりました。

喜寿(77)傘寿(サンジュ80)

米寿(88)卒寿(90)と

白寿(99)まで

白寿過ぐれば皇寿(111)願わん

VERDA MONTE TO は皆さんのおかげで、エスペラントの見える唯一の窓でしょう。批判など出来るはずはありません。ただ感謝申し上げるのみです。エスペラントを初めて耳にしてから六十余年、当時を思い出して感無料です。

(3) 私も編集後記を読むのが楽しみです。

(眼が見えなくなりました。)

★ 和歌山市 大橋和歌子さんより

私の書棚の一隅に岩波新書青版の「危険な言語」(La danĝera lingvo)(ウルリッヒ・リンズ著、栗栖継訳)という本が、もう大分前からひっそりと納まっています。

実はこの本の訳者「栗栖継」は私の従兄なのです。小さい時から母の話を通じて、この従兄の名は私にとってなじみ深いものでした。

韓国のソウルに生れ育った私は、従兄弟や従姉妹の顔を殆ど知りませんでした。それだけに、世界に「通用」するエスペラントという言葉をやつり、チェコ・スロヴァキアの文学作品を日本に紹介しているというこの従兄は私の憧れの的でした。

その頃婦人の友に連載されたチェコの諷刺的な物語、何でも「デブの国とヤセの国」とかいった題だったと覚えています。それが又とても面白く、新しい号が出るのを待ちかねて母よ

り先に読み耽ったものでした。エスペラントという言葉は私の家では従兄栗栖継の代名詞になっていました。

ところがソウルの女学校を出て東京の学校に入学した私が、或る日偶然伯父の家でバッタリ出会ったその人の印象は、余りにも暗く鋭かったのです。彼はその身のまわりに一種人を拒否する様なピリピリしたものを放射しながら、何かに耐える様に薄暗い部屋の中にじっと座っていました。私は一瞬たじろぎ、思わずじりじりと後ずさりする様な感じで、その人の傍を離れてしまいました。甘い乙女心の憧れも一ぺんに萎しえて濁どろむような、それは厳しい印象でした。

「危険な言語」を読んで私には、はじめてよく解りました。それはまさに1939年(昭和15年)日本のエスペラント運動が烈しい弾圧の嵐にさらされていた、そのまっ只中だったのです。

Trajno Ekiras Ne Ĉiam Akurate

列車はよくおくれます。

La 21an de Aŭgusto, 1975

Matene mi vizitis la stacidomon por rezervi la trajnon. Tio estis senkosta, ĉar mi havas Eurail Pass. La horo de la ekiro de la trajno al Barcelona estas 9:13 matene. Ĝis tiam mi devas matenmanĝi, kaj aĉeti por la tagmanĝo, sed ne troviĝis manĝaĵoj ŝatataj de mi. Tial mi trinkis lakton.

Je 9:13 la trajno ne venas. Mi longe atendis ĝin sed ĝi ne venas. Oni ne timas pri tio kaj ano de la stacio ne disaŭdigas pri tio. Finfine la trajno venis antaŭ la 10a. Tre malfrue! La trajno ne estis ekspresa kaj ĝi ne rapidis malgraŭ ĝi malfruiĝas. La trajno iros ĝis la stacio Morala Nueva.

Survoje al la stacio Morala Nueva mi vidis tre interesan vidajon. Najbara hispano sciigis min ke mi fotu. Tio estas vilaĝo ĉirkaŭ malnova stranga kastelo. La nomo de la vilaĝo estas "Samper de Calanda".



Mi ŝanĝis trajnon ĉe Morala Nueva. Tie mi aĉetis nur glaciaĵon, ĉar mi ne havis multan tempon tie. Kaj mi veturis per la trajno al Balcelona.

En la vagono, najbaro manĝis apetitivekan panon. Mi estas malsata, ĉar mi trinkis nur lakton matene kaj poste mi nenion manĝas tage. En la vagono estis tre varmege. Mi iom dormis, dum tiu tempo mi forgesis la varmegecon, sed kiam mi vekigis, denove estis tre varmege.

Nu, la trajno alvenis apuden de la stacio Barcelona Terminal 45 minutojn malfrue. Sed la trajno ial daŭre haltadas apud la stacio. Oni vidis el la fenestro antaŭen. Du trajnoj haltas antaŭ nia trajno. Eble io okazis en la stacio Barcelona Terminal. Finfine la trajno atingis la stacion ĉirkaŭ 2 horojn malfrue,

nome je 6:00. En la trajno estis tre varmege kaj la trajno tiel longe haltadis sed nenia disaŭdigo estis kaj oni ne koleris. Mi sentis, ke tio estas ja hispana koro. Oni bezonas unu aŭ du horojn por atingi zonon de hoteloj for de la stacio. Mi tre surpriziĝis.

La stacidomo ne havas informojn, nek keston kun ŝlosilo. La stacidomo ne estis granda malgraŭ en tia granda urbo. Troviĝis reklamoj pri pensionoj apudaj de la stacio. Mi vizitis kelkajn pensionojn aŭ hotelojn de "unu stelo", sed bedaŭrinde ili estis plenaj kaj rifuzis tranoktadon al unu persono.

Mi volis iri necesejon kaj manĝi ion. Tial mi eniris en Bar. Tie mi uzis

necesejon kaj trinkis cocacola kaj manĝis iel. Manĝaĵoj estis tre bon-

gustaj kaj malmultekostaj.

Prezo Estu Intertraktata Antaŭe

料金は前もって交渉しておかないと、ボラれます。

Mi telefonis al s-ro Jose Ivern en telefonejo apud la Bar, sed la telefono sonis ke iu alia parolas. Mi legis vojaĝan libron pri ekonomia pensio.

Mi paŝis en malpuran lokon. Tie estis multaj pensioj. Unue mi vizitis iun pensionon aŭ hotelon? nomatan "Segre". Mi demandis la prezon. Ĝi estas 80 pesetoj nur por dormi. Tio estas tre malmultekosta, kio tre surprizis min denove, ĉar la prezo estas sama kun la junulara gastejo en Hispanio. Mi decidis tranokti tie. Mi deponis al la mastro mian pasporton kaj pagis alie 15 p. por duŝo, kaj 20 p. por matenmanĝo, ankaŭ tiuj estas malmultekostaj. Mia ĉambro estis ĉe la 3-a etaĝo (eŭropmaniere la 2-a) kaj ĝi ne estis bona sed bona rilate al la prezo. La ĉambro ne havis fenestron kaj pro tio estas iom varmege.

Mi uzis la duŝejon kaj ĝi estis bona, ĉar ĝi havas sufiĉe varmegan akvon, kio estas rara en ekonomiaj hoteloj en Eŭropo, kaj ĝi ne estas malpura. Ĝi havas ŝlosilon sed ne funkcias. Post la duŝado, mi promenis sur la strato Ramblas. Pri la strato mi jam sciis per la vojaĝa libro. Strate, multaj homoj promenis kaj trinkis sidante sur la seĝo metita sur la strato.

Tio estas tre bona vidaĵo. La strato estas larĝa kaj ne kuras aŭtoj. De tie mi telefonis al s-ro Jose kelkajn fojojn sed denove kun la sono neniu venis. Mi vizitis butikon, kie hispanaj specialaĵoj estas vendataj. Iom pluvis kaj tondris. Mi direktis min por vespermanĝi al la Bar, kie mi manĝis antaŭfoje, sed ĝi fermiĝis jam. Tial mi manĝis ĉe apuda Bar. Forte pluvegis. Mi



バルセロナの裏まちの宿? "Segre"

trinkis cola, kaj manĝis salaton, fritbulojn kaj palinurojn. La palinuroj estis tre bongustaj. Kaj mi demandis la prezon post la manĝo. La mastro diris '180 p.' Tio estas ial multekosta. Eble li postulus pli multe. Sed mi ne demandis detalon pri la prezo, --ĉar tio estas normala prezo, se en skandinavaj landoj. Estis bona instruo por mi ke 'mi devas unue demandi la prezon antaŭ ol manĝi aŭ aĉeti'. Ankoraŭ multe pluvis akompanate de tondro. Post iom da atendado, mi kuris tra la pluvo al la tranoktejo "Segre" post la 11a horo.

(daŭrgota)

